

第四課 (舉國一致)

<p>二、忠魂碑について 我が郷土出身軍人の美談を忠魂碑と聯絡して知らしむ</p> <p>五月分 忠魂碑</p>	<p>一、日清日露戦役出征兵士 十六名 イ、日清戦役出征兵士 十六名 ロ、日露戦役出征兵士 三百三十九名</p>	<p>二、上海及滿洲事變郷土 1 上海事變出征勇士 海軍豫備一等水兵 原 英雄 (軍艦きり乗組) 海軍一等水兵 大西 武 (軍艦扶桑乗組) 全 河尾三次 (全右) 陸軍輜重特務兵 川上 利久 全 新家長吉 以上五名は支那における我國權益及在留同胞擁護の爲に或ひは海に戦ひたり</p>	<p>2 滿洲事變出征勇士 陸軍豫備歩兵一等兵 筒井 一郎 陸軍豫備航空一等兵 岩本 正一</p>
--	--	---	---

第六課 (公益)

<p>以上二名は滿洲及北支那に於ける我國權益擁護及在留同胞保護の爲出征し遺憾なく日本軍人の清麗振りを發揮したり 郷土民はよく出征者をして愛護せしめ後顧の憂なからしめたり又送迎には特に注意之れに當れり</p> <p>現在新宮市内國防婦人會員(昭和九年現在) 一〇八八人(全部) 一四七人(熊野地區)</p>	<p>一、郷土交通の促進 二、左 郷土交通の促進 三、左 郷土交通の促進</p>	<p>一、新宮の人にして性剛膽進取の氣に富む新宮月長として政界に雄飛の端を開き郡會議長として地方政界の牛耳を握り又實業界の頭號として全盛を極め多年財界に大なるし諸事業を起し就中新宮鐵道株式會社は氏の苦心懃愃の上創立したもので當時會社の株を無償で貰ひ受くる人が無かつた位に苦心を嘗めたものであるが今や熊野交通界の文化的先鞭を著け一大恩人として市陣前に銅像を建て永久に功績を稱へ偉業を燦として輝かしてゐる</p> <p>筆は滿川朝倫侯なり</p>
--	--	---

第七課 (衛生)

<p>一、我が市に於ける各種染病の死數及其半の病に對する市の施設 二、傳染病一覽表に就き説話す</p> <p>二、進取の氣象に富み熊野地開發のため一大偉業を成せる人にして、八咫鳥町に其の碑建てられ、業績を後世にたゞへられてゐる。事業の中、渡し舟の開發をなせるなり</p>	<p>一、傳染病一覽表に就き説話す</p> <p>二、傳染病に對する市の施設 1 大清潔法 七月施行八月下旬より中旬に亘りて下水道の浚渫 2 塵芥の除去 各戸に於ける塵芥汚物は清潔車によりて搬出焼却す 3 隔離病舎 萩野病院は患者三十餘名を收容し得 4 上水道の完成 飲料水の健康に及ぼす効果多大なり 5 其の他の施設 浴室、衛生宣傳等依る衛生思想の普及 6 下水道の完成を望む</p>	<p>三、市の衛生費につき説明す</p> <p>五月分 大分</p> <p>一、傳染病一覽表</p> <p>九、興業の進展</p>
---	---	---

第八課 (儉約)

<p>一、學校貯金は各自日頃の節約によりて生ずる金の貯蓄たるべきものなるを徹底せしむ 二、家庭及自己生活上不必要なる物品購入に費す金額は從來何れの家庭及び兒童にも相當あるものなれば節約品の調査をなして其の發表と批判をなさしむ</p>	<p>一、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 二、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 三、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 四、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功</p>	<p>一、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 二、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 三、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功 四、熊野地の恩人細井八左衛門の遺功</p>
--	--	--

一、家庭に於ける兄弟の状況を報告する兄弟
二、兄弟の相助の例
三、湯川寛吉翁の兄弟のついで

時熊野地は戸數も少く僅かに貧窮なる一部落に過ぎず、是が發展を圖るには産業を奨励し交通の利便を圖るにありと考へ明治七年自ら官に請ひ今の池田の渡船を設けたり以來對岸地方との交通頻繁となり物價の暴散地として我熊野地も發達の機運に向ひたり尙翁は處々に茶島を作り其栽培をも奨励せり其他種々我地方繁榮の爲に力を致され後東京に移住せらる爾來我熊野地は益々發展し今日に至る明治四十三年三月中熊野地區民は翁の遺恩を追憶し八咫鳥神社跡に紀功碑を建て其洪恩に報る其功績を永遠に記念せり

一、家庭に於ける兄弟の状況を報告發表し合ふことによりて將來に對する反省をなさしむ
二、湯川寛吉翁は住友家の總理事として關西實業界の大立物となり活躍せる人なり翁の弟湯川又夫氏は明治九年東大農科を優等にて卒業し後農學博士となりて九州帝大教授となれり痛快なる兄弟ならざる

一、湯川寛吉翁のついで

一、湯川寛吉翁は明治元年五月新宮に生る湯川家は代々九重村に醫業をせしも享保年間湯川杏節氏の代に遷り新宮藩主水野忠昭(第五代)の時召されて御典醫となり子孫其の職を襲ふ寛吉翁は寛齊氏の長男にして少時より「我れは國家を醫治する大國手たらん」と豪語し常に國家の繁榮に貢獻せんことを念願す翁の勉勵奮闘は遂に明治二十三年東京帝國大學法科を首席に卒業するの榮冠を得たり一度は選信省に入つて事務官、書記官、參事官となり三十六歳にて選信管理局長に勤任さる其後大阪の富泰住友家より入店を懇望せられて高等官二等の榮職を名残りに官界をすて住友家に入る翁よく主家の繁榮と國家の産業的發展に努力し總資本金參億圓の住友王國總理事として宰相を振ふ關西實業界の重鎮たるのみならず國家の一柱石たるの觀ありしなり
翁は甚だ強情負け續ひにて何事を

一、郷土出身の勉學せし人物の人物の状況

二、市民の勉學せし人物の状況

始むるも全力をあげてかゝる性質なりき。一冊の本を讀みかれば雨降りなど傘をさして通學しながらも讀み續けたりといはる。斯く進取的なりしかば大事を托されてよく完成せしものなるべし
二、我が地方民は新物食ひといはれ最初は熱し易けれど冷めやすき性質多ければ熱慮漸行永續的努力の養成には特に留意せしむ

- 一、郷土出身の勉學せし人物
 - (1) 本校卒業生
 - 青木三治君、神戸高商出身、野村證券株式會社紐育支店
 - 嶋野盛文君、東北帝大法律文科卒業、大阪市電氣局庶務課長
 - (2) 市出身者
 - 故湯川寛吉翁、東京帝大法科卒業、前任住友總理事
 - 故筒井八百珠翁、醫學博士
 - 湯川又夫氏、東京農大卒業、農學博士、九大教授
 - 角源泉氏、和佛法律學校卒業、臺灣土木局長より大阪市電氣局長
 - 新宮市員

一、郷土中主の婦人の話の例

一、各禮儀の行宣

一、須川とよ女の貞烈
郷土讀本卷一(七五頁)
慶應三年二月新宮五〇三番地に生る。資性貞順明治廿四年須川熊藏に嫁す。夫嘗體弱に罹り身體意の如くならず家計困難となるも、とよ女の精神益々堅固にして日夜看護に餘念なく長女二九を小學校に入學せしめ自ら他人の衣服を縫縫し其賃錢にて一家三口を糊す。其の間八年の久しきにわたる毒も倦怠の色なく時として諧謔の語狂の態をなし以て病夫を慰めり(貞烈傳)

矢田匡彦氏陸軍士官學校卒業、陸軍歩兵大佐(豫備役)

一、家庭に於ける
イ、父母長上兄弟間及隣近所の人々に對する禮儀
ロ、親戚、訪問客等に對する禮儀
ハ、友達間の禮儀
ニ、學校内外に於ける先生に對する禮儀及友達間の禮儀

(行 徳) 課六十二第		(恩 謝) 課四十二第	
二、市内 の徳行者 感化者	一、徳行 に感動 したる 例	三、個人 間の謝 恩例	一、報恩の ため、 主たる 寄附の 主たる 市及 他の 寄附 への 謝恩 例
二、市内徳行者の感化について知らしむ	一、徳行に感動したる各自の例を發表せしめて徳行の大切にして至大なる人格感化を悟らしむ	三、個人間に於ける謝恩の例として恩師及他の恩人に對し採りたる方法の發表と整理	一、1 毎年度卒業生の記念寄附 2 個人の寄附 3 蓬萊教育會の活動一斑 二、市及他の團體に對する寄附は身分相應に行ふは一つの謝恩なるを知らしむ

(量 度) 課一十二第	
二、郷土 の偉人	一、度量 を大に せしむ るに め好結 果を收 め且つ 自巳の 修養を なすに 方なり なり 感想と 交換の の偉人
二、郷土の偉人	一、津田長四郎氏の度量の大なる事を説話す 二、鐵道敷設に關し地方人迫害加へ邪寛せるを、一大度量により決行し地方開發の爲め新宮鐵道を開設す

(賞 誠) 課三十二第	
二、主人 の爲め 主として 店員に 話したる 影	一、湯川 吉翁 の誠實 な實績
二、表彰店員の例話復習	一、湯川翁及住友家雇員の誠實翁は常に情實因縁に左右されず一意専心主家住友家の爲に事業を經營する必要上如何に信任する部下にありても一度翁の主眼標榜を裏切つて職務に怠惰ある時は直ちに糺弾し功罪を斷ずるも又よく情味をもちて部下を幸ひたり、大震災當時同行日本橋支店の守備小使の四人猛火の中に死守して銀行を焼く難より救ひしを以て「この國氏は命に代へて住友家に盡くしたるものなり」とて勲賞措かず五萬圓宛を岡氏に與へて表彰せり、主家の爲めには一切の私情をすて盡したるなり

(宮神大皇) 課一第	
一、皇大神宮 速玉神社	郷土化 要項
<p>1 皇室の御先祖に坐す皇大神宮の御祭神天照大神は我が速玉神社の祭神熊野速玉大神とは御兄弟の間柄なること</p> <p>2 中世御歴代天皇は皇大神宮に次で速玉神社に御参拜行幸遊ばされ御尊崇厚かりしこと(宮地博士神祇史による)</p> <p>宇多上皇 延喜七年(一五六七)御一度 花山天皇 正歴二年(一六五一)御一度 白河上皇 寛治四年(一七五〇)御初度 大治二年(一七八七)御九度 鳥羽上皇 大治元年(一七八六)御初度 仁安三年(一八一三)御二十一度 崇徳上皇 康治二年(一八〇三)御一度 後白河上皇 昌寛元年(一八二二)御初度 建久二年(一八五一)御三十四度 後鳥羽上皇 正治元年(一八五九)御初度 承久三年(一八八一)御二十八度 後嵯峨上皇 建長二年(一九一〇)御初度</p>	内 容
	郷土科 郷土室 備考

(展發の運國) 課三・二第	
一、國運の發展に於ける郷土の諸点について考察	二、神棚奉置戸數を兒童について調査し置くこと
三、神社の参拜の心得	三、奉置箇所は常に清潔に
四、敬神の好例	三、皇大神宮の御札及各神社の御札は町重に祀るべきこと
<p>一、明治初年に於ける郷土と國運の發展につれての我が市の發展を左の諸点について考察</p> <p>一、人口 明治初年(明治三十年十二月末) 四三名 大正十年(大正十年) 五六名 昭和八年(昭和八年) 九四名</p> <p>二、戸數 町制 二七七五 全上 五三七六 市制 六九二〇</p>	<p>正喜元年(一九一七)御二度 龜山天皇 弘安四年(一九四一)御一度 九十八度</p> <p>1 神棚奉置戸數を兒童について調査し置くこと</p> <p>2 奉置箇所は常に清潔に</p> <p>3 皇大神宮の御札及各神社の御札は町重に祀るべきこと</p> <p>1 神社参拜の心得については特に崇敬感謝の念を以て儀禮的なるべきこと</p> <p>1 市内各神社氏子の神社奉仕</p> <p>2 湯川翁の神倉神社鳥居奉納</p> <p>3 植松家の速玉神社鳥居奉納</p>
<p>四年六月野水場 全七月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地</p>	<p>四年六月野水場 全七月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地 全十一月市街地 全十二月市街地</p>
人口統計表	人口統計表

網を持ち上界を控へたるにプロペラの運轉するに従ひ同氏等数名の力及ばず直ちに上界せりここに於て同氏は此力を熊野川上下船に取付ければ溯航易々たるものなりと信じ各方面に其の旨を説きけるに唯冷笑あるのみなりき幸に小西正一氏(小西正明氏祖父)の理解ある賛同一萬五千圓の出資により英國のOペーテ飛行學校長と稱する東氏に對し所謂神を要せず河川上下可能の船を作るべく掛合ひ目的船製造に關する契約をなせり然るに契約期間に納入せざりしかば更に同氏は壹萬貳千圓を出資大石眞子氏之れを引受け着手す出来上りたるものは船体の構造河川に適せず且つ機械適重にして神倉山裏手なる川瀬を溯航し得ざりき其後前契約者より翼とプロペラ付きの船を持参せしが反つて危険なるが故に翼を去りて其の機械を現在の如き高瀬船に取り付けて成功せしものなり

二、熊野川飛行艇株式会社
(1)創立

大正十四年従來營業の同種會社熊野飛行艇會社十津川交通株式會社

(營自立自) 課一十第

一、角源泉氏の行つてに
二、其の工物
三、夫の工物
本宮プロペラ船株式會社田中氏の大和號を合併し資本金拾七萬圓の株式會社を創立して現在に及ぶ
(2) 乗客人員 (人員は昭和八年度)
上り 二二、九八五名
下り 二二、一八七名
計 四五、一七二名
1 へちまたわしの工夫—中野總太郎氏夫人の語
2 香鑪の工夫—大石元郷氏家傳
3 礫石鑄造の製造—宮川龍太郎氏家傳
1 角源泉氏は明治四年九月三輪崎に生る
角家は代々三輪崎の大庄屋として連綿たり父故三郎左衛門氏は篤學達觀の士で幕末に際し地方民の救済産業の振興に巨萬の私財を投じて盡力せしが故に懸運に際會す源泉氏は幼名魚民彦といひ少年時代はよく母君の誤に従ひ沈着温良なる性質なりき氏は同兄あり、同兄の家運挽回に働くを見たる氏は軍人たらしむる五圓を持十七歳にして知人に伴はれ東京に出づ當時東

京に出づるには新宮より木之本海路長崎に渡り津まで陸行四日市に出で横濱まで船に乗り行けり。東京に出でし氏は遠縁なる一洋服店の小僧に住込む後司法省刑事局長にして選信次官に榮進せる河野祐之氏の家に入る時に氏十八歳氏は主人の氣に入りとなり(美事なる筆蹟と熟達せる文章)とより官吏たらんと志すに至る佛語を研究し明治二十六年法政大學の前身和佛法律學校の佛語法律科を卒業せる後主人河野氏死去するあり然河野家を辭し友人の宿を食客し歩けり此の頃の氏は常に二三の愛讀書破れたる袴洗ひ晒の袴の外何物もなかりきと此の英才をみぬける當地の尾崎作次郎氏同作右衛門氏等相計りて氏を奨助するに及び明治三十年高等文官と列檢事の試験とに同時に合格直ちに司法官試験となり和歌山地方裁判所に赴任其の春田邊に轉ず間もなく田邊を引上げ東京に出でしが掛川寛吉氏(當時通信官)を頼り通信官に入りて廣島郵便局監理課長となる明治三十三年大阪郵便電信局監理課長次いで東京郵便電信局監理課長

(益 公) 課二十第

一、市益の業務
二、市立圖書館
三、市役所の前方にあり益々擴充を要す
四、消防組織
明治三十五年長野一等郵便局長、日露役には拔擢されて滿洲軍郵便部長として出征勳五等旭日章を賜はり、明治三十九年春凱旋、同年熊本局長、同四十年二月札幌通信管理局長(高等官四等)同四十四年臺灣の通信局長次いで土木局長となる(勳任)大正八年臺灣電力會社副社長大正十二年役を辭して一浪人となる、大正十三年二月大阪市電氣局長、現在新宮名譽市長たり

組頭一名	第一部(新宮) 部長小頭
副組頭二名	第二部()
傳令一名	第三部()
旗持一名	第四部(熊の地)
書記一名	第五部()
	第六部(三輪崎)
	第七部(佐野)
	第八部(三輪崎)

各部へ又次ノ係ニ分レテ井ル
1 新宮
管轄係 四

覽組表一

消防標燈係	一六
消防給水係	一八
消防救急係	三六
消防信標係	一
消防三輪車	二
消防管線係	二
消防消防係	二
消防標燈係	二
消防信標係	二
計	二十七名

三、上下水道の目的と使用上の注意について

四、新宮救護所について
帝國水難救護會新宮救護所、新宮救護所は沿海に於ける人命財産の遭難救助を目的として明治二十三年四月創設、所長は植松新十郎氏を経て尾崎榮之助氏に至る監督は新宮警察署長、救助長一名、看守長一名、看守一名、組長五名、救助手三十四名あり

開所以來遭難救助せしもの多数にのぼる

救助船數 一二〇隻
同 船價 四七六圓〇五〇
同 荷造價格 二〇三圓七八〇

五、池田の渡について
明治七年舊新宮藩主水野家の重職(御用人兼軍奉行)たりし細井八左

五月五日
水上
道

(善 慈) 課四十第

一、市の慈善事業について

一、社會々館
一、創立沿革
イ、昭和七年九月九日新宮方面委員會にて救護施設として授産場設立を決議す
ロ、昭和八年五月二十五日竣工
ハ、同年七月一日時の木村町長の委託を受け方面委員會に於て假容救を開始す

二、組織
イ、社會々館
館長一名、名譽職方面委員會幹事長
常務理事四名、方面委員會常任幹事
主事一名、常務理事兼務
評議員七名、方面委員會幹事

翁の開設にして對岸との交通に大なる好影響を與へ熊の地盤屬上大切なる設備なること

六、職業紹介所
市役所内にありて求人求職者の便益を圖りつゝあり

七、津田長四郎翁の交通上に於ける遺功復習(五年參照)

他に庶務係主任一名、看護人兼炊事婦一名、會計係一名

ロ、授産場々長一名、館長一名、講師一名、主任一名、技術員三名を置き講師、主任、技術員ともに職業の輔導、授産の技術指導に當ることとせり

三、設備
イ、新宮社會々館設備概要
位置 新宮市市田區六千二百九十番地ノ一
敷地 二百五十五坪
建物 本館三棟木造瓦葺平家建九十六坪五合五勺附屬建物二棟作業倉庫

内附
醫務室一、收容室雙老四、食堂一、事務室一、作業場兼講堂一、洗面場二、炊事室一、應接室一、收容室青兒二、浴場二、宿直室一、便所三

ロ、防貧施設新宮授産場設備の概要
位置 新宮市市田町六千二百二十番地ノ一、二
敷地 五十坪
建物 木造瓦葺平家建一棟三十六坪

内附
事務室一、喫煙休憩室一、製品庫一、材料倉庫一、作業場

四、時業の現状及利用方法
救護施設の部社會々館
イ、雙老、救護法第一條の賦當者中左記の者を市町村長の委託により收容救護す
(1)六十五歳以上の老衰孤獨者
(2)不具癩病、疾病、傷損其の他精神又は身体の障礙に依り介護を要するもの
ロ、青兒 救護法第一條の賦當者中左記の者を市町村長の委託により收容救護す
(1)十三歳以下の幼者にして扶養義務者なきもの
(2)十三歳以下の幼者にして扶養義務者あるもその能力充分ならざるもの
(3)兒童虐待防止法第二條第三項の委託を受けたる者
ハ、其他居宅救護者にして市町村長並に方面委員に於てその必要を認めたるもの
ニ、現在社會々館に收容救護しつゝある雙老孤獨者十六名あり

(務の民國) 課九十第	
<p>一、納税成績調査</p> <p>1 市内各區に於ける納税成績を知らしむ</p> <p>2 納税期日を調査し遅きて滞れざる様注意せしむ</p> <p>1 自家の種類の納税義務の徹底に資する</p>	<p>防貧施設の部 授産場</p> <p>本館經營に係る新宮授産場は前述の如く新宮市民にして乙種カード階級に属するものにして方面委員の調査表に登録したるもの若くは失業若くは所定の申込用紙に希望仕事の種類、住所、姓名、経験の有無、本人の専歴、家族数等を記載の上授産場に提出せば申込順並に家庭の事情を参酌して入場を許可す申込用紙は各方面委員の宅に備へ付け尙便宜上入場希望者の受付は授産場及本會事務所(新宮市役所社會課内)に於て之を受理す</p> <p>現在授産場に於て取扱へる仕事の種類は需要者との關係上左に限定せり</p> <p>一、製繩</p> <p>二、杓子製造</p> <p>三、割箸製造</p> <p>製産品取引方法</p> <p>取引方法は多量の場合は係員及方面委員出張し少量或は急を要する場合は直接係員と交渉せられたし</p> <p>2 方面委員</p> <p>各區にありて其區内に於ける貧困者等の調査をなし適當なる處置を</p>

(務の民國) 課八十第	
<p>一、郷土出身者との近況</p> <p>1 毎年夏始めに調査し置くと共に其後の入替者をも調査して出来得れば近況の報告を受けて説話すること</p> <p>2 検査當日の壯丁の學力格、態度等に關する状況を知らしめ検査に對する正しき認識を興ふ</p>	<p>二、市内團體の慈善事業</p> <p>1 青年團の年末慈善鍋</p> <p>2 方面委員會の同情寄附募集</p> <p>3 濟成會病院</p> <p>4 市内切通しにあり毎週一回貧困者の病氣を診察す</p> <p>4 貧困者に對する給與</p> <p>市内特別貧困者に對しては市費を免除するもの及び市費を補助する等の事項をなしつゝあり</p>

(務の民國) 課十二第	
<p>一、納税成績調査</p> <p>1 市内各區に於ける納税成績を知らしむ</p> <p>2 納税期日を調査し遅きて滞れざる様注意せしむ</p> <p>1 自家の種類の納税義務の徹底に資する</p>	<p>我が市の各種議員及び其の職務</p> <p>1 市會議員</p> <p>2 市參事會員</p> <p>3 市出身縣會議員</p> <p>4 同代議員</p> <p>5 各種團體役員のあること</p> <p>議員選舉の公正なるべきこととを級務委員及自治會役員選舉について考察せしむ</p>

(務の子女と務の子男) 課一十二第	
<p>一、各家庭に於ける父の日常生</p> <p>1 各々の家庭に於ける父の日常生活、行事等を反省せしめて男子及女子の務の夫々特徴あるを語らしむ</p> <p>2 男女共同すべき点をも考察せしめたり</p> <p>3 最高學年としての自覺を興へしむ</p> <p>4 郷土の男女に就きて批判内省せしむ</p> <p>賓客に對する取次及(女掛八参照)送迎(二十分)(男掛十二参照、女掛九参照)</p> <p>響應を受ける作法(四十分)男掛十三、十四参照及女掛十二、十三、十四参照</p> <p>三學期中に實習</p>	<p>一、郷土出身人物の復習</p> <p>1 湯川寛吉翁</p> <p>2 角源泉氏</p> <p>3 其の他</p> <p>二、自己の反省と將來の語悟</p>

五勤六自
年勤立自
勉年立自
参照

(育 教) 課四十二第	(第 師) 課三十二第
<p>一、我が市の教育の現状と</p> <p>二、感謝の精神を涵養する</p>	<p>一、現在までの学習に</p> <p>二、師の恩に</p>
<p>新宮町郷土誌二三五頁新宮小學校沿革参照</p>	<p>1 入學より現在までの受持訓導を思ひ起さしめ其の感化教育に感謝せしむ</p> <p>2 學校以外に於て或は、珠算の師として又は夜學の師として自己を教導せし人々をいはしむ</p> <p>1 師を尊敬し師恩に報ゆる方法を考究せしめ其の實行を促す</p>
<p>一六年十月</p> <p>市教育課</p>	

(語幼るす國に育教) 課五十二第
<p>一、幼語に對する禮儀</p> <p>二、幼語の所以</p> <p>三、幼語の發達</p> <p>三、幼語の發達</p>
<p>1 幼語練習時に於ては嚴肅なること</p> <p>2 幼語練習に際しては町重なる最敬禮をさるべきこと</p> <p>3 幼語練習には特に靜肅に姿勢を正しくすべきこと</p> <p>4 幼語練習の場に出合ひたる時は練習終了まで不動の姿勢たるべきこと</p> <p>1 幼語は教育の根本聖諭にして我等臣民はあくまで遵奉し大御心に副ひ奉るべきを充分知らしむ</p>

郷土化による 讀方教授の取扱ひ

目的

國語教育の使命は正しい言語を理解させ之を使用し得る能力を養ふ事であるが、郷土教育上國語の力は最も其の目的を達するものであり、郷土愛の養成上或程度迄で方言を許容し以つて本科の使命を遂行せん。

取扱方針

一、兒童の言語生活の調査をなし、之が具體的指導をなす。

二、郷土の自然事物によつて、兒童の言語を擴充せよ。

三、教科書の内容を、兒童の親んで居る郷土に活かして取扱ふ。

尋常科第一學年國語郷土化

藤村 藤村の東遊記

目録
一、藤村の東遊記
二、藤村の東遊記
三、藤村の東遊記
四、藤村の東遊記
五、藤村の東遊記
六、藤村の東遊記
七、藤村の東遊記
八、藤村の東遊記
九、藤村の東遊記
十、藤村の東遊記

尋常科第二學年國語郷土化

朝) 頁五四	(鯉) 頁四四	(ニコハ) 頁八三 (ビ遊ハ) 頁一四	(校登ノンサ郎太) デマ校歸ラカ
二、 の栽培 に於ける 栽培	一、 の製作	一、 の製作	二、 的郷土 かえが す
一、各自栽培せる朝顔につき継続観察をなすしめ発表(圖書、お話)せしむ 二、臨時花園の朝顔に就いて継続観察	一、学校の池の鯉の観察(ごひ、黒ごひ) 二、阿須賀神社境内のお池にたくさんの鯉がある	一、箱庭の共同製作挿畫の観察 二、学校の運動場の砂場で作つて見る 三、濱に遊びに行つた時作つたことがあるか	四、軍艦の畫(太郎さんのかいた) ○熊野川を走るプロペラ船を描かす 五、富士山の畫(花子さんのかいた) 山 千穂が峯、神倉山、お城山、 圓山の中を描かす 六、歸校時の作法
種蒔	五月 金魚		
休			
な録の親繼 すみ記察續			

(ヤシキ) 頁四 頁一十	(月正+) 頁〇六 頁一六	(頗)
二、 の表 にの 注に 意す	二、 の表 にの 注に 意す	生活
一、この地方で材木を澤山積んだ汽車が多いことに注意す 二、教科書の繪は貨車ばかりであるが、この地方のは客車と貨車と混合であることを教へる 三、踏切で遮断機の下りてゐる時は通らないで餘り近くによらないでこまつてゐること 四、線路へはいつてはいけないこと	一、年末大賣出し ちんどん屋さんが皆さんの町へまはつて來るのを見るでせう。たのしいお正月の用意に店の大賣出しが初まります 一、皆さんのお家では餅を搗いたり門松や、しめ縄を買つて飾ります。お正月のお話しを休がすんだら皆さんに聞かしていただきます	祭をなすしめ総合的合一体として取扱ふ

<p>第 六 課 (こよひ)</p>	<p>第 八 課 (いけさ)</p>
<p>郷土化 要項</p>	<p>時計調</p>
<p>内 容</p> <p>一、學校の雞の觀察 二、子供の家で雞を飼つてゐる家を調べて見る。 座席の組合で棒グラフを作製し統計の趣味を養ふ</p>	<p>一、お家の時計に就いて調べる 座席の組合で棒グラフを作製す</p>
<p>郷土科 ト 郷土室 ト 備考</p>	
<p>連 絡</p>	
<p>連 絡</p>	

<p>第 十 八 課 (よぎんき)</p>	<p>第 十 九 課 (火 花)</p>
<p>金魚の觀察</p>	<p>一、花火の注意 二、花火の注意 三、花火の注意</p>
<p>一、學校に飼養してゐる金魚の觀察 一、兒童の内又は池等で見つけた金魚の話し合ひ</p>	<p>一、夏時兒童が電鐘出して買ふ電鐘 花火の話し合ひ 二、木の本、佐野の花火の話し合ひ 三、新宮河原でも今夏から煙火をあけるそうです熊野大橋の上から観れば美しいものでせう</p>
<p>五月 金魚</p>	

尋常科第三學年國語郷土化

(んびうい) 課三十第

(ばしむ) 課二十二第

郷土に於けるボストの再認識	方齒の磨き
<p>一、市内のボストの認識と葉書や切手を賣る店のあること</p> <p>○お正月には年賀状が湯山来ますが何處から誰がつてくるのか</p> <p>○ボストへ葉書等を入れること、誰が届けてくれるのか</p>	<p>一、毎朝必ず磨くこと</p> <p>二、磨き方はブラシを齒にそつて上下に使ふこと</p> <p>三、齒磨訓練を行ふも可</p>

(風南と風北) 課十二第

(管入のんさいに) 課四十第

郷土の地方的向地に對する	一、入營の経験 二、發家の表對する 三、入營する者の對する 四、入營する者の對する
<p>一、海の方から來る風は東風</p> <p>二、成川の方から來る風は北風</p> <p>三、神倉山の方から來る風は西風</p> <p>四、坊主山の方から來る風は南風</p>	<p>一、送行式 凱旋兵奉告祭、六年生は代表して式場に參列する</p> <p>二、入營する人の有る家の祝儀 祝儀は軍人會より一本たてることに限定されてゐる</p>

(節 長 天) 課 四 第		(しくやじまたお) 課 三 第	
祝日に對する反省	天長節の祝日なること	継続観察	郷土化事項
正しい國旗はどこへ置いてありますか、教	天長節は今上陛下の御生れ遊ばされた日で日本國中どこへ行つても國旗を掲げてお祝ひします 自分達も講堂で校長先生のお祝ひの言葉を聞きましたれ心からお祝ひして立派な日本人となりませう 皆さんの内の國旗は誰が立てましたか、誰がとり込みましたか、自分達で出来ないでせうか 常に國旗はどこへ置いてありますか、正しい國旗はどこへ置いてありますか、教	蛙の卵を養成して、おたまじやくしから蛙になるまでの變化を、直観させるが良い 皆さんは一年生の時、おたまじやくしを飼つたでせう、どこから捕へてきましたか、どこが一番多いですか、何になるのでせう續けて見て行きませう 背面黒板を利用し日を書き込む欄を設けて記入させ	内 容
		一年の五月	郷土科 郷土室 備考

(足 遠) 課 七 第		(りきノ鯉) 課 六 第	
運足の乗について	運足の乗について	へて置ませう	
1 廣角の台地 2 御手洗の歴史跡 3 港 4 漁村の様子 足後の感想を述べます、顧方の児童作文或は純文を出して連絡つくるも面白し	行き先地 學校—圓山—東徳寺—廣角—新道—三輪崎—佐野—宇久井濱—しらべる事柄	學校でも運動場に鯉を立って、やり男兒を祝つてやり直観の材料に食する。	一年の二午の節の
	三年の四月の(遠足)		

尋常科第四學年國語郷土化

(植 田) 課二十第	(蠶) 課一十第
<p>の學校附 田近</p>	<p>一、蠶の飼育 二、蠶絲の製法</p>
<p>此の教材を取扱ふ前後に於て、田植の實況を見學せしめる事も大切である。學校の四側に水田を設けて苗代田として苗を植えてゐたでせう、それを皆水田に植えて大切なお米をさるのです。</p>	<p>一、教室に蠶を飼つて、兒童に世話なさせ、繭、蠶、まぶし等について、直觀させるのは、甚だ望ましい事である。 二、蠶絲會社 製品は横濱港より海外へ積み出し主として米國へ送る、其の際生絲検査所に於て嚴重なる検査をなし積出す、年産額約貳拾萬圓移出する。</p>
<p>二年六月 田 三年五月 水</p>	<p>五年十月 参照 製本 物</p>

(らがての犬) 課二十二第	(さこみの名彦少) 課三十第
<p>熊野大に ついで 軍大に 美につ てにつ てにつ</p>	<p>少彦名 命は熊野 にお出づ にたつて 常世の國 たにたれ</p>
<p>一、熊野大の話し合ひ 二、軍大、金剛、那智が皇軍に従つて美事にその任務を果たし、忠死したる物語を讀讀させて、幼童に感激を興へる 久司歌謡が純熊野大を軍用犬として差出し教育の結果大へんよいそ うです</p>	<p>一、古事記、日本書紀に其の記載がある 二、古事記に據ると 大國主の神、少彦名の神と二人相並んで此の日本を作り堅めさせられたのである 三、日本書紀に據ると 大己貴ノ命(大國主ノ命)は少彦名ノ命と力をあはせ心を一にして國土を御經營になつた</p>

第九課 (馬 競)	第三課 (秋 の 山)	第一課 (物 生 の 海)
一、郷土の炭の集散状況、品類	一、氏神の神事考、二、速玉神社のお祭りの神事、御船漕ぎの神事の状況を想起せしむ	一、食用魚類の生産高、二、児童日常家庭に於て食用とする魚類、海藻類と聯絡せしめる
一、熊野川流域は木材の産地であるのみならず又木炭をも多量に産する。所謂熊野炭と總稱されるものであつてその中新宮を経て移出される額は次の通りである	一、氏神、氏子、境内、祝詞、拜殿等は阿須賀神社につきて説明す、二、速玉神社のお祭りの神事、御船漕ぎの神事の状況を想起せしむ	一、児童日常家庭に於て食用とする魚類、海藻類と聯絡せしめる 昭和二年(魚族生産高調) 七千貳百圓(シラス) 番多イ 昭和三年 壹萬參百貳拾五圓(シラス) 番多イ 昭和四年 四萬七千四百五拾圓(イワシ) 番多イ 昭和五年 壹萬六千六百七拾五圓(イワシ) 番多イ 昭和六年 壹萬四千壹百九拾五圓(イワシ) 番多イ 昭和七年 壹萬貳千四百六拾貳圓(ウナギ) 番多イ 昭和八年(合併後) 七萬九千七百八拾六圓(イワシ) 番多イ
炭の価格調覧表、生産額	十一月の秋の木の葉、紅葉、四月、東仙寺	三年六月、水産物動費表

第十二課 (日 十 百 二)	第四十二課 (岸 彼)
一、郷土に於ける十日間の暴風警報	一、郷土に於ける彼岸の行旅調査、二、調べるに於ける地、三、郷土の行事との連絡を考へよ、四、寒暖計につき調査をなす
一、現在の學校の位置は今殆ど郊外と言つても良い、二、學校前、下熊野地方の百姓家の心配も考へられること、思ふ、三、本校の標示器につき説明をなす	一、彼岸、お墓参りの事、二、種蒔、株分、植替、學校園實習地の作業に就き、三、郷土の行事との連絡を考へよ、四、寒暖計につき調査をなす
昭和十二年一月、入取の月	昭和四年、二二七、二八八圓、五年、一五七、〇五〇圓、六年、一三七、八四〇圓、七年、一一一、九三一圓、八年、一一三、四九三圓

第四十課 (き つ 餅)	炭 (焼)
一、郷土の餅の發行、二、餅の行土	一、炭の價格調覧、二、熊野炭
一、せいろう、のし板、きれ兒童の見たる様子を話さす、二、床しき郷土行事の一つ、餅屋でつかせる家も有るが又家で搗く家も有るその話し合いを爲す、三、細民救済の餅配りなす	昭和四年、二二七、二八八圓、五年、一五七、〇五〇圓、六年、一三七、八四〇圓、七年、一一一、九三一圓、八年、一一三、四九三圓、價格は變動多く一定しないが大体次の通りである、木炭(白炭)一俵壹圓貳拾錢、(黒炭)一俵八拾錢、二、兒童の家庭に於て使用して居る炭につき考へさせ、一、種類、二、價格
一年の正月のお飾り	

第十二課 (日 十 百 二)	第四十二課 (岸 彼)
一、郷土に於ける十日間の暴風警報	一、郷土に於ける彼岸の行旅調査、二、調べるに於ける地、三、郷土の行事との連絡を考へよ、四、寒暖計につき調査をなす
一、現在の學校の位置は今殆ど郊外と言つても良い、二、學校前、下熊野地方の百姓家の心配も考へられること、思ふ、三、本校の標示器につき説明をなす	一、彼岸、お墓参りの事、二、種蒔、株分、植替、學校園實習地の作業に就き、三、郷土の行事との連絡を考へよ、四、寒暖計につき調査をなす
昭和十二年一月、入取の月	昭和四年、二二七、二八八圓、五年、一五七、〇五〇圓、六年、一三七、八四〇圓、七年、一一一、九三一圓、八年、一一三、四九三圓

尋常科第五學年國語郷土化

第二十八課 (乃木大将の幼年時代)

<p>一、幼少の時 自分たちの 往復一里 學校から家までの (南谷の墓地迄)</p>	<p>二、三度の食事 自分達の日常生活の内省 乃木大将 東郷大将 兒童崇敬人物として各教室の正面 にかゝける 五、郷土出身の人名を知らしてやる 荒木大将、野村大将、有馬大将</p>
<p>三、發直内省 けるに對俾 心對俾 掛す人</p>	<p>一、の生 二、直内省 三、發直内省</p>
<p>君の遺骸は遂に見當らず</p>	

(鶏 養) 課四第	(日 今) 課一第	
一、郷に於ける養鶏の調査 二、養鶏の調査	一、郷に於ける朝夜の生活に於ける調査 二、活るる朝夜の生活に於ける調査	郷土化 要項
一、養鶏場(西養鶏場、島養鶏場)の調査 二、養鶏場の整理 三、養鶏戸数の調査 四、養鶏戸数の調査	(イ) 更け行く夜 自分の家の近くの最夜中 夜まはり (ロ) 當市の夜替について (ハ) 東の窓は白みたり 町の焼の様子 (ニ) 夜遅く又早朝汽車でたつ人等見送りに出た時、町の様子を實際に味はす (イ) 就寝時刻、起床時刻 (ロ) 内の人の仕事	内 容
表養家畜統計	私四年の家	郷土科 郷土室 備考

(話 の 星) 課九十第	(價 の 物) 課一十第	
一、北極星の観測 二、北極星の観測 三、星の研究 星座表によりて	一、水道設置後水の価格を生じた事を知らしむ 二、使用高、賃金表によりて生活指導をなす 一月料金 四拾錢 共同栓 四拾錢 自家用 電圓拾錢	飲料水に 關する 知識
一、寶石をちりばめる福田時計店の陳列 二、北極星 町のどの邊にあたるか方位を正確に知らす 三、星の研究 星座表によりて	一、水道設置後水の価格を生じた事を知らしむ 二、使用高、賃金表によりて生活指導をなす 一月料金 四拾錢 共同栓 四拾錢 自家用 電圓拾錢	水道使 用高及 賃金
一九三二年 九月見	星座表	

（日 の 舉 選） 課 五 十 二 第

兒童選舉

- 一、投票所
市内公會堂、三輪崎等
- 二、選舉權
市役所に配布
- 三、候補者
市内要所に立たれる名札
- 四、兒童の選舉
- 五、衆議院議員、市會議員、縣會議員の選舉の際各家庭に配布される注意書及選舉當時の空氣を想起させ級役員の選舉の正しく清い心持で行はなければならぬ事を指導す

（拜 參 宮 神 治 明） 課 一 第

- 一、境内
速玉神社、阿須賀神社の境内
- 二、水屋、社務所、賣物、實地參觀
- 三、神社建物の研究
- 四、明治神宮創立の節新宮市三輪崎小學校兒童、教師共に佐野海岸の那智黒石を採取し獻納す
- 外苑の道路上にあるは之なり

（人 し ぶ 道） 課 三 第

一、郷土に於ける訓練者

一、佐野垣下番五郎氏の道路開設
垣下番五郎氏に就いて氏は新宮市佐野の生れ幼少の頃より貧苦を嘗み成人するに至り、大工業を修めそのかたはら農業をも營みつゝ生活したり。現在古稀に近けれど尙壯者を凌ぐ元氣なり。氏は全く徳行の人にして公益をばかり、人の手、人の惠をからず自分の義務に著く前朝三時、四時から里民の安寧幸福増進の爲にはたらいて居るのです。
去る五年前佐野の坊主山から山田に行く道はなく米をはこび、肥料を運搬するのに道はなく牛も運れないのを氏は老体をも顧みず一人の自力によつて三ヶ月の日月を費して三百米程の道を完成したのであります。
今まであざけり笑つた村民も完成の今日彼の行蹟をほめた、へない者はありません。

（行 銀） 課 十 第

一、郷土の銀行
二、銀行の調査

- 一、郷土の銀行
(イ) 當座預金、定期預金
(ロ) 市内大同銀行について金融の常識を養ふ
- 二、銀行調べ
(イ) 市内の銀行、市民の預金調、預金の種類

銀行の調査

（坑 炭） 課 四 十 第

一、石炭の場
二、石炭の産出
三、石炭の係り

- 一、宮相の無煙炭
池田の石炭場
- 二、佐野の石炭
昭和九年十二月現在、百二十人の従業者
- 三、兒童の石炭を使用せる家を調べて見る

（入 出 輸） 課 五 十 第

一、郷土の輸出品

一、郷土の輸出品
生糸（新宮製糸場）神戸神樂製糸會社から國立製糸検査所の手を経て輸出さる。主に米國へ行く。
洋紙（南洋）

四年七月
五年十月
五年十一月

（業 言 いく に ひ 言） 課 七 十 第

一、郷土人の使用語

日常の生活語の中からいひにくい言葉を集めて發音を正す
ゴツシヤリマセ（謝罪の意）
イマハル、テダキ（驚）
ガイナ、ダンナ

郷土の方言の調査

尋常科第六學年國語郷土化

(船 鯨 捕) 課二十二第

(中 の 室 温) 課九十第

一、三輪
二、鯨の
三、捕鯨船の
四、船の

一、女学校の
二、室中の
三、温の
四、仲之町

一、熊野浦の捕鯨としての三輪船の捕鯨船史

一、仲之町開專門店見學又女學校の温室見學

(徳 高 島 兒) 課七十二第

(證 保 な か し た) 課四十二第

一、郷土の歴史
二、的の事
三、關實史

一、郷土の商會
二、に於ける
三、店員
四、に於ける

一、吉野朝時代の熊野備兵の事

一、商會
吉野商會、奈和商會、十津川商會
③商會等神武町に在り
二、店員入用の廣告
町に見かける色々
三、職業紹介所、市内各會社、商店の採用に就いて
四、店員の表彰なども購せられて居る

一行一
家月
數七
月野
七上
人宮
十新
宮一
月別

上海と郷土との關係

一、上海事變と郷土人の出征
昭和七年東亞の風雲急を告げ上海に於ては日本人及び日貨排斥の聲高く遂に事變を引き起せり。當時我が軍部に於きましては、居留民の保護、權益、擁護の爲海軍を出征せしめた

陸軍征々軍人として新宮市民にはなけれども海軍にては司令官野村吉三郎大將を始め、當市より一等水兵河尾三次(小使の子)、一等水兵大西武(佐野當時軍船扶桑乗組)等制海權確保の爲出征致し奮闘の任に當られたり

二、プロペラ船の進出
我が新宮にて發明せられたるプロペラ船は國內國外共に多方面に進出し、その爆音の高きと共にその元祖熊野川プロペラの名は高し陽子江にも之の利用を試みんとして天満出身(新中出身)由比太郎氏は經營せし所、その成績見るべきものありたり。現在八隻に及べりといふ

四年一月の地方

新宮の貨幣

一、貨幣の集算
紙幣の集算
二、變遷について

郷土と南米の關係

知人の南米に移住したるもの、實際又彼の地より來れる郷土人の手紙について

1 方位(東々南)
2 交通關係
日本郵船
香港—門司—橫濱—ホノルル—ヒロシマ—アムステルダム—マンサニロー—カラア—オーストラリア—モントレー—アライカ—イキター—バルパライソ

移民關係

貨幣一覽

一月一回、九三三九理、所要日數十三日
大阪商船
神戸—四日市—橫濱—神戸—長崎—香港—サイゴン—新嘉坡—コロンボ—ダーバン—ポートレリザ—ベスター—クープタウ—リオリ—デジャネイロ—サントス—ブエノスアイレス

3 移民關係
三月二回以上、年十回、所要日數四十九日

渡航者數 アラウル(昭和八年中)

アラウル	五二
和歌山	一三四
海草	二一九
伊都	一三四
那賀	一六三
有田	三五八
日高	二八三
西牟婁	八一四
東牟婁	二一五七
計	二二、一八四

送金額 二二、一八四圓

郷土自治の精神

一、自治團體
新宮市について
二、教育衛生
新宮市の設備
三、産業組合
四、新宮市の公共團體一般を抽出しその自治の精神について學習する

1 自治會(學級、學校)
2 少年赤十字團

國旗

一、各國の國旗
萬國旗に依り説明。
二、四大節其他祝日の時掲揚する事に依りて日本國體を知らしめると共に各國國旗の尊重
三、我が校の毎月一日の國旗掲揚
四、校旗制定日 大正四年十一月三日、第十八回開校記念日の日に制定式を行はれた
五、兒童に飾りに使つた國旗の始末を充分させる

- 一、學級、學校自治會の内容への保
及
- 二、新宮市會について
新宮市全体の事柄を評議し、實行
し我々を幸福安全の地位にたもむ
くなること
- 三、町内の各區の規約を守つて行か
しめる、精神を養はしむ

一、宇治電會社の當市における活動

二、各自家庭に於ける電氣利用の調
査
アイロン、センプウキ
電話、ラゲオ

社電十一
力會
路氣來郷
路のる土
調系電に

- 一、郷土人の長所短所を知らず
郷土人の長所
- 1 人には親切にして従順である
- 2 小さいことにさらはれず心持が
大きい
- 3 敬神崇祖の念に厚く国旗掲揚を
守る
- 郷土人の短所
- 1 時間を大切にしない
- 2 華美にして遊惰
- 3 言葉遣ひが悪い

市市十二
役民月
所さ
査查短の郷
表所長土
調調所人

郷土生活による綴方題材

郷土生活による綴方題材

綴方は児童の生活の文字による表現である。故に綴方教育に於てはその表現の対象となるものは、児童の生活の全野に亘つてその一切を内容としたものである。

而して児童の生活に就て考へる時、彼等が日常最も親しみ愛するものは、児童の環境であるところの郷土生活でなければならぬ。何となれば彼等を育て上げたものは、彼等の四周を圍繞する自然であり、社會であるからである。實に児童に對して斷えずる薰陶を與へるものは自然社會の環境であり、自然や社會から彼等は常に刺激を受けて知識を攝受し、感情を深めて向上伸展して行くのである。

人間にはそれ／＼發表欲があるが、児童時代は特にそれが甚だしい。大人にとつて極めて普通のことでも、彼等には限りない興味と喜びを與へる。此の興味が湧き、喜びのおこる時、彼等を最も満足させるものは發表である。よく児童が綴方の題材がなく「書くことがない」と云ふことがあるが、これは綴方が生活と絶縁された場合に多い。茲に於て綴方の指導に於ては、彼等の郷土の生活を中心として郷土に即せる、或は文學的、或は道德的、或は科學的、或は實際的な生活を對象として行ふことが必要である。而して表現指導の目標としては、先づ彼等の郷土生活を綴方化する心を養はなければならぬ。彼等の生活内容を題材と

行事	祭観活生	話童	紙手日記	會社と家	事仕び遊	色景	文月の材
六月十五日 健康週間	雑念の始末	ボフシの花と虫	日記の学習	端午の節句	梅雨の日記	梅雨の日記	六月の日記
廿二日 入梅日	六月の日記	梅雨の日記	梅雨の日記	梅雨の日記	梅雨の日記	梅雨の日記	六月の日記
廿五日 夏至	夏至の日記	夏至の日記	夏至の日記	夏至の日記	夏至の日記	夏至の日記	夏至の日記
廿七日 御誕生	御誕生の日記	御誕生の日記	御誕生の日記	御誕生の日記	御誕生の日記	御誕生の日記	御誕生の日記

行事	祭観活生	話童	紙手日記	會社と家	事仕び遊	色景	文月の材
七月六日 短縮授業開始	水浴の整理	夏の祭りの話	日記の学習	七夕祭りの話	七夕祭りの話	七夕祭りの話	七月の日記
十三日 盆入り	盆入りの話	盆入りの話	盆入りの話	盆入りの話	盆入りの話	盆入りの話	七月の日記
十五日 土用入り	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	七月の日記
廿四日 土用入り	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	土用入りの話	七月の日記

行事	祭観活生	話童	紙手日記	會社と家	事仕び遊	色景	文月の材
八月八日 立秋	立秋の日記	立秋の日記	立秋の日記	立秋の日記	立秋の日記	立秋の日記	八月の日記
二十日 ラヂオ体操	ラヂオ体操の日記	ラヂオ体操の日記	ラヂオ体操の日記	ラヂオ体操の日記	ラヂオ体操の日記	ラヂオ体操の日記	八月の日記
廿一日 秋分	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	八月の日記

行事	祭観活生	話童	紙手日記	會社と家	事仕び遊	色景	文月の材
九月一日 二学期開始	二学期開始の日記	二学期開始の日記	二学期開始の日記	二学期開始の日記	二学期開始の日記	二学期開始の日記	九月の日記
十五日 秋分	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	九月の日記
廿三日 秋分	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	秋分の日記	九月の日記

郷土化 による 算術教授の取扱ひ

目的
一、教育の具体的事象として郷土の事象を利用し手段化しやうとする。 二、郷土の事象を直接的に研究する事によつて郷土そのもの、時間的、空間的地位を認識しやうとする。
取扱ひ方針
1 心理的に観て、子供の知らんとするものと之を理解するもの選ぶ。 2 教科書との連絡を保つもの。 3 可成数系統に留意す。 4 教材に關して郷土認識上他地方との比較をなす。 5 郷土の進展より鑑みて國民として國民としての教材を加味してゐる。 6 郷土調査をなし作爲に訴へる事を多くし以つて郷土の体認をなす。

十月の行事	生活観察	話 童	紙 手	會社と家	事仕び遊	色 景	文十月
	法達替夏	から運	手紙菊	親祭見燈	がの野	山業雨秋	秋晴れ、天の川、明月、秋の野紅
十一日 國旗掲揚式 十五日 お祭り 十六日 お祭り 十七日 神嘗祭 廿三日 靖國神社例祭	法達替夏、冬衣準備、運動と身体、お祭りの行事習慣、稲の收穫	から運、サカカニ合戦、自然	手紙菊、日記、運動日記、いまさつ日記、れいす	親祭見燈、松茸山、栗拾ひ、お祭りの行事習慣	がの野、子守り、どんぐり取、ふろたき	山業雨秋、市田川、月見、秋の野紅	秋晴れ、天の川、明月、秋の野紅
	業 作	査 調	察 觀 然 自	物 食	物 動	物 植	校 學
	のの菊、の仕作り、花壇の手入、多物の製方カレンダー作製、十月	工由ら、新十五、六日の祭事と行商しらべ。	温實の成、稲の收穫法、長短と果	芋、栗、はぜ、甘藷、百合、里	虫、とんぼ、四角、馬	茶、花、たのしみ、さくら、山	の足、の時間、行進、遊戯、練習、体操

十一月の行事	生活観察	話 童	紙 手	會社と家	事仕び遊	色 景	文十一月
	明体告火	カ童菊	生菊	妹の菊	こ、の山	薄葉夜秋	秋晴れ、秋の山、紅葉
八日 立冬 十一日 世界大衆平和記念日 十五日 七五三 廿三日 新嘗祭	明体告火、人口の増減、警文拂、大運動の日	カ童菊、二つの玉、カチ	生菊、日記、学習日記、掃除日記	妹の菊、七五三の日、お父さん	こ、の山、野球、どんぐり、まはん	薄葉夜秋、紅葉、紅葉、枯木、落	秋晴れ、秋の山、紅葉
	業 作	査 調	察 觀 然 自	物 食	物 動	物 植	校 學
	十一月、十一月、十一月、十一月、十一月	工由ら、新十五、六日の祭事と行商しらべ。	温實の成、稲の收穫法、長短と果	芋、栗、はぜ、甘藷、百合、里	虫、とんぼ、四角、馬	茶、花、たのしみ、さくら、山	の足、の時間、行進、遊戯、練習、体操

十二月 の行事	祭観活生	話 童	紙 手 記 日	會社と家	事仕び遊	色 景	の十二月 の文材
一日 国旗掲揚式	凍傷、ヒビとその預防、感冒の注意、大掃除の法、本年の回顧と反省。	冬ごもり、十二月の年末、行事の中からの。	兄弟、先生、お友達の生活日記、お手帳日記、子守日記、親類の内の。	年賀状(よそに)、お友達の生活日記、お手帳日記、子守日記、親類の内の。	歳暮の用意、年賀状かき、うちのもちつき、雪見かき、土會、クリスマス、雪見かき、(サンタクロース)。	カルタの練習、うれしき、おひつ、はき、葉かき、もちつき、大根つけ、葉かき、推拾。	すつかり冬だ。木の葉も落ちてしまつた。木も近くなつた。年末で。
十四日 義士打入記	業作	査 調	祭観然自	物 食	物 動	物 植	校 學
十五日 年賀状取扱	大掃除の手伝い。	十二月の行事、児童文庫、新聞社の調査、児童文庫、新聞社の調査、児童文庫、新聞社の調査。	草の冬、木の年輪、冬の日の。	蓮根、人蔘、葱、牛肉、浅漬、みかん、そば、うどん。	冬の鳥、水鳥、サメ、小鳥、ズミ、ウサギ、カナリヤ、(學校で飼育中)。	ポプラ、ミカン、早梅、南天、水仙、寒菊、椿、牡丹、山茶花、フリス。	終業式、四十七士の講話、冬休み、多休の計画、二期の思ひ出、通知簿、二期の學
廿二日 皇太子殿下御降臨日	廿三日 皇太子殿下御降臨日	廿五日 大正天皇祭					

一月 の行事	祭観活生	話 童	紙 手 記 日	會社と家	事仕び遊	色 景	文一月 の文材
一日 新年拜賀式	火災の原因とその防止、感冒と健康、正月の行事の反省。	一月の生活行事、門松、北風、正月の遊びから、祭行、電線のこと、金太郎、祭行。	年賀状の贈り、寒中見舞、学日、正月日記、冬休の日記。	年賀状の贈り、寒中見舞、学日、正月日記、冬休の日記。	初め、お年玉、初詣に、元日の夜、お年玉、初詣に、元日の夜、お年玉、初詣に、元日の夜。	カルタ取り、双六、羽子、板つき、雪だるま、つくり、あみもの、雪だるま、つくり、書。	お正月は楽しいです。お正月は楽しいです。お正月は楽しいです。
八日 学元始祭	業作	査 調	祭観然自	物 食	物 動	物 植	校 學
十五日 小豆粥	一月の行事、門松、北風、正月の遊びから、祭行、電線のこと、金太郎、祭行。	一月の行事、門松、北風、正月の遊びから、祭行、電線のこと、金太郎、祭行。	新年の金魚飼育について、新年の金魚飼育について、新年の金魚飼育について。	鯛、イセエビ、鯛、数の子、干柿、ぞうに、餅、こんぶ、干柿、ぞうに、餅、こんぶ。	ぼり、小鳥、冬鳥りの鳥、ぼり、小鳥、冬鳥りの鳥。	梅花、水仙、水仙、水仙、水仙、水仙、水仙、水仙。	新年拜賀式、学元始祭、学元始祭、学元始祭。
廿一日 大晦入り							

算術練習帳
目録

十一以上の数	五から四	三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五
十一以上の数	五から四	三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五
十一以上の数	五から四	三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五
十一以上の数	五から四	三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五

空間観念の養成	漢字の読み書き	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念
空間観念の養成	漢字の読み書き	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念
空間観念の養成	漢字の読み書き	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念
空間観念の養成	漢字の読み書き	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念	数の観念

郷土化された算術科細目 尋二

<p>二位数より基数を引くこと</p> <p>既習の基数の練習</p>	<p>二位数より基数の具</p> <p>一年間の道</p>	<p>二基数の加法</p> <p>お雛ま</p>	<p>二分の遊</p> <p>遊び</p>	<p>求むることを</p> <p>遊</p>	<p>求むることを</p> <p>遊</p>	<p>求むることを</p> <p>遊</p>	<p>求むることを</p> <p>遊</p>
<p>一、長さの目測</p> <p>二、テープ切り</p>	<p>一、本學年に於ける</p> <p>二、本學年に指導した</p>	<p>一、お雛まつり</p> <p>二、主として本學年に指導した</p>	<p>一、二十種又は四十種</p> <p>二、その他等分除法の</p>	<p>一、長さの目測</p> <p>二、テープ切り</p>	<p>一、長さの目測</p> <p>二、テープ切り</p>	<p>一、長さの目測</p> <p>二、テープ切り</p>	<p>一、長さの目測</p> <p>二、テープ切り</p>
<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>	<p>紙</p> <p>ラ</p> <p>フ</p> <p>用</p>

要項土化	前各月の男女児童調査を示す	復習の各年	新宮市	加法一	加法二
内容	④ 各月男女児童調査を示す。その問題を構成して、材料として、算入した研究の材料として、算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	前各月の男女児童調査を示す。その問題を構成して、材料として、算入した研究の材料として、算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	新宮市各学区別男女児童調査の人口表の調査方法。人口表及び人口調査の調査方法。人口表及び人口調査の調査方法。	加法一 算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	加法二 算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。
備考	男女別児童調査表	人口表及び人口調査	各学区別男女児童調査表	各種の貨幣	器具類の測定

各地への距離	色々の量	色々の量	色々の量	色々の量	色々の量
一、各地への距離測定法を示し、之を資料として、算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	二、各人の宅までの歩測による距離測定法を示し、算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	一、種々な量を示し、算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	二、水の量、豆等の算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	一、茶碗、コップ、土瓶、サイダー瓶、パック等の算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。	一、洋服、帽子、靴、及衣類の算成及びその材料を。算成及びその材料を。算成及びその材料を。
各種の量	水、砂、豆、上の量	同上の量	同上の量	同上の量	同上の量

乗法四物の價	乗法三各作	乗法二鉛筆と	乗法一夏休中	復習一色々の	應用同色々の	應用同色々の	應用同色々の	應用同色々の	應用同色々の
①ハンカチーフ、靴下の一枚又は ②ハカチーフ、靴下の一枚又は ③ハカチーフ、靴下の一枚又は ④ハカチーフ、靴下の一枚又は	一、大カレンダーによる月と年との 二、木綿の長さ 三、糸の重さと代金 四、米の重さと代金	一、鉛筆又はゴロスの指数 二、一本買とゴロス買とゴロス買の 価格調査	①九月 一、気温状況を知らしめグラフを作 らしむ	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定	一、長さ辨目、目方の賞測練習 二、教科書目方の測定、頁数調査、 壁と窓の長さ、物の價、各人の背 の高さ調査測定
定價表	調査用紙	時計	鉛筆	状況表	調査用紙	調査用紙	調査用紙	調査用紙	調査用紙

乗法五	乗法六	乗法七	應用同	復習二	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同
一、地圖によつて主要地点の距離測 定又は實測 二、各隊の乗車賃金調査 三、各隊の乗車人員調査 四、各隊の乗車賃金計算	一、各隊の乗車賃金調査 二、各隊の乗車人員調査 三、各隊の乗車賃金計算	一、運動場に於ける歩数の練習をな し、歩幅の長さ決定 二、各人の家までの距離計算 三、グラフ作成	①十一月 一、一ヶ月間の歩数について何人座せられ るか調査 二、一ヶ月間の歩数について何人座せられ るか調査	一、学期の授業日数を大カレンダー によつて調査し、更に之を時数分 数に換算せしむ	一、全生徒数を調査し之によつて全 生徒の目方、食量、貯金高等の種 々の計算をなす	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量
地圖	調査表	テープ	調査用紙	大カレン ダイ	生徒数の 調査	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙

除法三	除法四	除法五	除法六	除法七	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同
一、學校生活、家庭生活中より材料 を求め包含等分除法の練習 二、一度につく餅の量の調査を休み中の 宿題として置く	一、その年の新しい暦の見方を指導 して暦に関する知識を得せしむ 二、一年は十二ヶ月なること及通法 命法計算練習	一、全生徒数により各学年平均 児童数及一学年平均児童数を求めし む 二、他校との比較	一、金校舎の長さを求めて次に教室 の長さを求めむ	一、本館の高さの目測又は圖表によ る調査 二、それらの比較をなさしむ	一、米多價格調査 二、手拭の長さ、玉子の重さ、紙一 帖の枚数調査 三、歩幅の長さ調査	一、米多價格調査 二、手拭の長さ、玉子の重さ、紙一 帖の枚数調査 三、歩幅の長さ調査	一、米多價格調査 二、手拭の長さ、玉子の重さ、紙一 帖の枚数調査 三、歩幅の長さ調査	一、米多價格調査 二、手拭の長さ、玉子の重さ、紙一 帖の枚数調査 三、歩幅の長さ調査	一、米多價格調査 二、手拭の長さ、玉子の重さ、紙一 帖の枚数調査 三、歩幅の長さ調査
層	各人の貯 金高	本校及他 校との生 徒数調べ	巻尺及平 面圖	本館の股 高計土地	調査用紙	調査用紙	調査用紙	調査用紙	調査用紙

復習三	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同	應用同
一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量	一、身長、体重調査 二、毎月の平均温度及雨量
温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙	温度 雨量 グラフ用 紙

- 16P 應用問題 1
- (1) 兒童ノ所持セル學用品ノ代ヲ調査シ問題ヲ構成セシムル。
 - (2) 夏ノ休ミガ38日、冬ノ休ミガ14日、學年末ノ休ミガ127
ルト皆ヲ日ニナルカ。
 - (3) 電校ノ男生徒ハ〇〇〇〇〇人、女生徒ガ〇〇〇〇〇人、先生
ガ28人ナルト合セテ幾人デスカ。
 - (4) (5) ノ計算ヲナサシム前ニ次ノ器ニ何種入ルカラ實驗セ
シム。

- バケツ (大、中、小)、ニナイ、タライ。
- (7) 皆サンガ皆サンノ腰掛クニ立ツト下カラノ高サハドレダケカ。
- 注意 各人ノ掛クテキル腰掛ノ調査ヲナシムコト。
- (8) 學校ノコンクリート塀ノ長サヲソレゾレ計ラシム全体ノ長サヲ求メシム。
- 26P 應用問題 2
- (1) 兒童ノバクシノ代ヲ調ベテ問題ヲ改作セラレタシ。
- (4) 砂糖2斤入ヲ買求メテ、ソノ目方トフクロノ目方ヲ測ツテ正味ノ目方ヲ求メヨ。
- (5) 各人ノ辨當ヲ測リソノ差ヲ求メヨ。
- (6) (7) ノ問題ヲ實際ニツイテ測ツテ計算セヨ。
- (8) 富士山ト千穂峯、大台山等ニツイテ比較シソノ差ヲ求メヨ。
- (9) 3年生生徒ノ人数ヨリ男生徒(女生徒ニアリテハ女生徒)ヲ求メヨ。又自分ノ學級ノ生徒ヲ求メヨ。
- 30P 應用問題 3
- (1) 各教科書ノ目方ヲ測リ、ソノ日ノ教科書ノ目方全体ヲ求メヨ。
- (2) 算術書ノ全体ノ頁數ニヨツテ、マダ習ツテキナイ頁數ヲ求メヨ。

- (4) 教室ノ天井ヨリ床又ハ上ノ窓マデ、及ビ上ノ窓ヨリ下ノ窓マデノ長サヲ測リ、下ノ窓ヨリ床マデノ高サヲ求メヨ
- (5) (6) 實際兒童ノ買ツタモノヲ本トシテ、コノ問題ヲ改題シ計算セシメヨ。
- (9) ソレゾレ兒童ノ身長ノ比較ヲシテ次ニソノ中3人ヲ選ビテ、コノ問題ヲ改題シ計算セシメヨ。
- 30P 應用問題 4
- (2) 皆製ハガキノ縦横ノ長サヲ測リ之ヲ縱又ハ横ニ8枚ツラネテ、ソノ各ノ長サヲ求メヨ。
- (3) キレムノ代ヲ調ベテ置イテ價6mノ代ヲ求メヨ。
- (4) 廊下ノ長サヲ測ツテ置イテ、コノ廊下ヲ往復スレバ何程ヲルカカ
- (5) 1圓デソノ時ノ米ノ相場チ何程ヲ買ヒ得ルカ。又7圓デハ何程買ヘルカ。
- 48P 應用問題 5
- (1) 「武士」トイフ筆ヲ18本買ヘバ、ソノ代ハイカラカ。
- 1本8錢ノ筆ト明記セヌ方ヨカラソ。
- (2) 現在使用セルクレイオンノ名ヲ賣ヘテ問題ヲ撰スベシ。
- (3) 各人ノ家ノ1日分ノ食料ヲ調査シ、1ヶ月(31日トシテ)又ハ一ケ年(365日トシテ)ノ食料ヲ求メヨ。
- (4) 石油罐ノ1個ノ入ヲ求メ、24罐ノ入ヲ求メヨ。

- (5) 10mヲ何回カニ歩イ1歩ノ平均ノ長サヲ求メ、次ニ80足デハ何回進ムカ。
- (6) 自動車1時間ニ進ム速サヲ調ベ(郷土室ノ掛圖ニヨリ)12時間ニ進ム距離ヲ求メヨ。
- (8) 式ノ時間ニナラベテキル講堂用ノ腰掛ノ數ヲ求メシム、1脚ニ6人ツツ坐ソルト何人スワレルカ。
- (10) 綴リ方用紙1頁ニ何字ゾ、何行書ケルカ。1頁ニ何字書ケルカ。之ニ20枚ニ何字書ケルカ。又48枚ニ何字書ケルカ。
- (11) 毎日3時間ゾツ習フト1週間ニ何時間習フカ。5時間ゾツ26日習フト何時間習フカ。
- 52P 應用問題 6
- (1) 3年生ノ生徒ハ皆チ何人カ。ソノ中自分等ノ組以外ノ生徒ハ何人カ。
- (2) 3年ノ男生徒ニ紙ヲ3枚ゾ、ヤルニハ幾枚アルカ。
- (3) 皆サンノ傘ノ長サハ何cmアルカ。ソレデアル橋ノ長サヲハカツテ12セントアヤリガ16cmマツタトシタラ、ソノ橋ノ長サハ幾ラカ。
- (4)
- (5) 米一俵ノ入りハ何立カ。又只今米ノ1立ハイカラカソレヲ調べテカラコノ問題ヲヤリナサイ。

- (6) 教科書ノ問題
- (7) 全上
- (8) 3年生1人平均ノ目方ハ何kgアルカ。ソレニヨツテ全生徒ノ目方ハ何程トナルカ。
- (9) 皆サンノ家デ1人1日ニ米ヲ平均何程食ヘルカ、コレニヨツテコノ問題ヲヤリナサイ。
- 61P 應用問題 7
- (1) 教科書ノ問題
- (2) 同上
- (3) コノ學校ノ生徒ハ皆チ何人カ。
- コノ學校ノ生徒ヲ27學級ニワケテキルガ、1學級平均幾人ト何人アアルカ。
- (5) 白墨1本ノ目方ト1箱正味ノ目方トハ何程カ、測ツテゴラン。サウシテ1箱ニ何本入ツテキルカ計算シテゴランナサイ。
- 72P 應用問題 8
- (1) 教科書ノ問題
- (2) 全上
- (3) 校報ノ1行ニ何字書クコトガ出来ルカ、數ヘテゴラン。
- ソシテ336字ヲ書カウトスレバ何行ニナルカ。
- (4) 3年生ガ速足シテ字久井カラ汽車ニ乗ツタソノ時ノ人員

- ハ〇〇〇人デ汽車賃〇〇〇〇程ハラツタ、一人1クヲニツ
クカ。
- (6) 米一立ノ代ハ只今何程カ' コレニヨツテコノ問題ヲ計算
シナサ1。
 - (7) 麥1立ノ代ハ何程カ、コレニヨツテコノ問題ヲ計算シナ
サ1。
 - (8) 半紙1帖ハ何枚カ、又美濃紙一帖ハ何枚カシラベナサ1
美濃紙2500枚ハ何帖ト何枚ヲアルカ。
 - (9) 教科書ノ問題
 - (10) 卵ノ目方ハ何程アルカ測ツテゴザン。
1個50gトシテコノ問題ヲヤリナサ1。
 - (11) 本館ト南舎トヲソレゾレ先生トーシヨニ測ツテカラ、コ
ノ問題ヲヤリナサ1。
 - (12) 皆サンノ1足ハ何cmカ、(以前ニ測ツタコトガアル)、熊
野大橋ハ418m デアルト何足ニワタレルカ。
- 78P 應用問題 9
- (1) 教科書ノ問題
 - (2) 全上
 - (3) コノ組ノ生徒ノ1ヶ月分ノ共同資金ハ、教育會費16人分
ト皆デ1クヲカ。
 - (5) 皆サンノ家カラ學校マデ何mカ、又學校カラオ宮マデ何

- mカ、ソレヲ測ベテカラコノ問題ヲヤリナサ1。
- (6) 郷土堂ニ學校ノ高サヤオ城山ノ高サヤ、ソノ他名高1山
ノ高サナボラザラララニシテ其ル表ガアリマス。ソレニヨ
ツテ富士山ハ千餘米ノ凡ソ何倍カ。オ城山ハ學校ノ凡ソ
何倍カシラベナサ1。
- (7) コノ學校デ或ル日ニ降ツタ雨ヲ測ベテ来テ、1時間ニ1
クラ降ツタカ計算シナサ1。
- (8) (9) リンゴトイカンノ代ヲ測ベテナサ1。
- (10) 1匁デ大豆ヲ1クラカヘルカ測ベテ置1テ、コノ問題ヲ
ヤリナサ1。
- (11) 600g入ノ茶ハ1ポ位ノ大キサニナルカ作ツテゴザン。
- (12) 教科書ノ問題
- (13) 全上
- (14) 全上
- (15) 木場デ働ク人ノ賃錢ヲ1時間ニ直シタラ1クヲニナルカ
(但、働ク時間ヲ9時間トシテ計算シナサ1)ソレカラコ
ノ問題ヲ計算シナサ1。
- (16) 教科書ノ問題
- (17) 全上
- (18) 全上
- (19) 全上

郷土化
された
算術科細目 尋四

目方積一	作りの方	石灰
一、運動場に於て一aの廣さを作らしむ	一、立方體の立方体を一立方mのかさにつみ上げる實習	一、立方體
二、荷車自体の重さは何噸あるかを調査	二、木村何噸積めるか調査	m及立方體
三、寒暑計見方指導	三、寒暑計見方指導	寒暑計
四、新宮、勝浦、古座、田邊、和歌	四、新宮、勝浦、古座、田邊、和歌	地圖によ
五、各人の身長、體重調査	五、各人の身長、體重調査	検査表
六、平均點及それによつて學級學年の全體重の調査	六、平均點及それによつて學級學年の全體重の調査	定價表
七、肉類の單價調査により請求を價格を求むること	七、肉類の單價調査により請求を價格を求むること	通信簿
八、反物の長さ及價格調査	八、反物の長さ及價格調査	身長計
九、一學期の平均點の求め方	九、一學期の平均點の求め方	測定器
十、各人の身長と座高の測定をなさしむ	十、各人の身長と座高の測定をなさしむ	石油鑛

應用問題六	時間	應用問題七	角度
汽車、自動車の一時間に走る速さを求めること	今年の 一、今年の月を讀みとらせる 二、毎月のカレンダー調査 三、各月の曜日、大小、祝祭日、平均、冬至、立春、夏至、春分、秋分、冬至等	私の放送 一、各人の生活時間表作成 二、之によつて時間の問題構成 三、毎月サイレンのなるのは何日か、何日か、カレンダーを作つて調べてみる	教室の天井に正しい方角を記入してはりつけること 二、學校中心より重なる地点への方角調査 三、各家の方角調査
講堂の建坪の周りと面積を求めしむ 勿論平面圖を渡して調査して長さを書き入せしむ	新聞	サイレンカレンダー	三角定規

復習三	應用問題八	各種正札
一、正札を揃めてその記入法を調べそれによつて種々の事實問題の計算をなす。	一、賃金調査を行はしむ。それによつて事實問題構成と國民の寄附金の割合及寄附金の總高調査	各種正札
二、一月一日より今日までの日數計算及時分秒への換算	二、各自の家の水道一ヶ月使用量及その料金を調査し一日の量及料金を計算	賃金調査表

10P 應用問題 1

- (1) 洋服ノマデテ体ノ重サヲハカツテ、次ニ洋服ヲハカリ自分ノ体ダケノ重サヲ計算シナサ1。
- (2) 物ノネダラシラベテコノ問題ヲ計算シナサ1。
- (3) 天井カラ床マデト、天井カラマデト、マデノ長サヲ測ツテ、マデカラ床マデノ長サヲ計算シナサ1。
- (4) 教科書ノ問題
- (5) 全上
- (6) 全上
- (7) 全上

22P 應用問題 2

- (1) 自分が買ツタ半紙1帖ノ代ニ幾シテ計算セヨ。
- (2) 針金8mノ代ヲ4クラカラシラベナサ1。ソシテ1mノ代ヲモトメナサ1。
- (3) 但、針金ニハ色々アルガ、中位ノ太サヲヨロシ1。
- (4) 只今米1kgノ代ハ何程カ。ソレニヨツテ計算シナサ1。
- (5) 麥8kgノ代ハ1クラカラシラベテ次ニ18kgノ代ヲ計算シナサ1。
- (6) 新宮カラ5kmノ所ハドノベニソツタルカ。先ゾソレヲ知ツテコノ問題ヲセリナサ1。
- (7) 普通ニ1日ノ賃金ハ何程カ。又1時間ノ賃金ハ何程カ、夜業ヲスレバ1時間ニイクラモラフカ調べナサ1。
- (8) 教科書問題
- (9) モスノキレガ1mイクラカラシラベテ、コノ問題ヲセリナサ1。
- (10) 教科書ノ問題
- (11) 生徒二人ノ席ニ75cmイリ、正面ノカベカラ220cmノ所カラ机ヲナラベ、九ツノ机ト腰掛トヲ正シクナラベテカラ後ノ腰掛トカベトノ間ヲ何程ニスレバヨ1カ。但、机ト腰掛トハフクナ1。

28P 應用問題 3

- (1) 兒童文庫ノ書籍ヲ5年ト6年トヲ調ベテ、ソノ差ヲ求メヨ。
- (2) コノ問題ハ不名數トシ計算スルヤウニナツラ井ルガ、適當ナ名數ニ直シテ計算シナサレ。
- (3) 教科書ノ問題
- (4) 全上
- (5) 全上
- (6) 全上
- (7) 全上
- (8) 4年ノ生徒全体ヲ一列ニ28人ヅ、並べルト幾列ト幾人ヲナルカ。
- (9) 教科書ノ問題
- (10) 1匹ノ蠶ガ出ス糸ノ長サヲ500 トスルト、學校カラドコデデセウ。
- (11) コノ圓ノ圓ヲ5錢又ハ10錢白銅貨トシテ計算シテゴラン
- (12) 教科書ノ問題
- (13) 全上
- (14) 全上
- (15) 全上
- (16) 教卓ノ縮圖ヲ先生ニ作ツテモラツテヤツテゴラン。

(17) 石油1立ノ重サト水1立ノ重サトヲハカフカラ、コノ問題ヲヤリナサレ。

- (18) 教科書ノ問題
- (19) 米ノ1kgノ代ヲ調ベテコノ問題ヲヤリナサレ。
- (20) 教科書ノ問題
- (21) 障子1枚ヲハリカエルノニハ紙何枚イルカシラベテ、24枚ノ障子ヲハルニハ紙何枚イルカ。
- 36P 長サ
- ココデハ物差、巻尺測、桿等ヲ用ヒテ教室内ニ於ケル體々ノ物ノ長サ及教室外ニ於ケル廊下、校舎等ノ長サヲ測ラシム。ソウシテコレヲ記録セシメテ置ク。記録セシムル場合ニ各種ノ單位ヲ書キ表ハスコトガ出來ルコトモ教ヘテ置クコト。勿論基本單位ハ1メートルコトモ授クベキデアル。
- 37P 面積 1
- 實物ニヨツテ正方形ナルモノヲ教ヘ、正方形ヲシタ物ヲ言ハシム。
- 正方形ノ廣サヲ言ヒアラハス言葉又ハソノ廣サニ對スル概念及ビソノ基本單位等ヲ實際ニワクシテ教ユ。
- 次ニ廣サヲ求ムル方法等ヲ教ユ。
- 次ニ廣サノ單位ヲモ實際ニツキテ教ユ。
- 39P 目方

(1) 教科書ノ問題

- (2) 皆サンノ重サヲkg又ハgデ書ケ。
- (3) 1トンハ1kgノ何倍カ。
- 1トンハ石油罐ノ大体何倍カ。
- 皆サンハ何人位デ1トンナルカ。
- (4) 荷車ノ自重ハ何トンカ。コノ荷車ニ木材ドレダケツムコトガ出來ルカ。荷車ニ記入シテ井ルカラシラベテ置キナサレ。
- (5) 1立升ニ水ヲ入レテ測ツテゴラン。但、升ノ目方ヲ引キタ實際ノ水ノ目方ヲ測リナサレ。
- 42P 應用問題 4
- (1) 自分ノ体重カ4年ニナツタ時ヨリドレダケ増シテキルカ又減ツテ井ルカ。
- (2) 教科書ノ問題
- (8) 全上
- (4) 全上
- (5) 皆サンノ体温ハ大体何度位ダト思フカ、一度測ツテゴラン。(正シイ測リ方ヲ教フ)
- (6) 教科書ノ問題
- (7) 新宮カラ勝浦ニ至ル各驛間ノ距離ヲ調ベ且新宮勝浦間ノ長サヲ求メヨ。

(8) 皆サンノ家カラ學校マデノ距離ハ何程カ。又皆サンガオ

- 友達ノ家ニヨツテ學校ヘケル距離トクラベテ何程ヨケイニ歩カナケレバナラヌカ。
- (9) 學校ノ南運動場ノ廣サハ何メートルカ、コレヲ知ツタカラコノ問題ヲヤリナサレ。
- 52P 應用問題 5
- (1) 教科書ノ問題
- (2) 全上
- (3) コノ問題ニヨツテ1枚ノ長サト實際ノ長サト調ベテゴラン。
- (4) 教科書ノ問題
- (5) 皆サンノ一學期ノ平均ニ誤リガナイカ、ヤツテゴザン。
- (7) 三郎ノ身長ヲ自分ノ身長トシテ計算シナサレ。
- (9) 自動車屋デ實際ニツイテ調ベテ、コノ問題ヲヤリナサレ
- 54P 面積 2
- (1)——(3)實際ニツイテ調ベナサレ。
- (4) 算術書ノ表面積ヲ計算シナサレ。
- (5) 教室ノ廣サヲ計算シナサレ。
- (6) 教科書ノ問題
- (8) 1マヲ運動場ニ作ツテゴラン。
- (9) 教科書ノ問題

- (11) 講堂ノ敷地ハ何アールカ測リナサヤ。
- 56P 体 積 2
- (4) コノ問題ヲキントビテ作ツテゴラン。
- (5) コノ問題ノ通りノ木片ヲ作ツテモラツテ、コレヲ計算シテサヤ。ソノ前ニ1立方cmノ木片ニヨツテ自測シナサヤ
- (6)
- (7) 算術用具棚ニ實物ガアルカラ、ソレニヨツテシラベナサヤ。
- (12) コノ問題ノ通りノ器ヲ作ツテモラヒテ之ヲ先ヅ自測シ、次ニ邊ノ長サヲ求メテ計算シ、最後ニ實際ホク入レテ檢メテゴラン。ソノ他日用使用ノ器ヲ測定セシメ後實際ニ水ヲ入レサセテ檢シテゴラン。
- 58P 應用問題 6
- (1) 族ヲ3モヅ、ヘダゲテ8本運動場ニ立テサセ、第一ノ族カラ最後ノ族マデ紙上ニテ計算サセ、後實際セシメテ之ヲ驗シテゴザン。
- (2) コレモ自轉車ノ輪ヲ實際ニツイテシラベナサヤ。
- (3) 教室カラ門マデノ長サヲ先ヅ測リ、次ニコノ問題ヲヤリナサヤ。
- (4) 教科書ノ問題
- (7) 講堂別館ノ平面圖ヲ作ツテモラツテ、ソノ廣サヲ調べナ

- サヤ。
- (8) 自分ノ家ノ間口ト奥行トヲ實際ニツイテ測ツテ坪數ヲ求メナサヤ。次ニ皆サンノオ父サンニ次ノ事ヲ調べテモラヒナサヤ。
- 「オ家ノ附近デハ1坪1クハラ位デヌカ」
- (9) コノ問題ヲキントノモノヲギール紙デ作リナサヤ。ソレカラビチラガドレダケ大カシラベナサヤ。
- (11) 學校ノ本ニツイテ實際シナサヤ。
- 但、二人デ1冊ノ本ヲ測ルコト。
- (12) コレモ先生ニカノソデ、ブリキ屋デ作ツテモラツテヤリナサヤ。
- (13) 自分等デ測ツテゴラン。但、器ノ重サヲ引クコトヲナスレテハチリヤセシ。
- (15) 炭1俵ノ目方ハ1クハラト書イテ井ルカ調べテカラ、コノ問題ヲヤリナサヤ。
- (16) コレモ實際シナサヤ。
- 68P 應用問題 7
- (1) 本年ノ曆ニヨツテ平年同年ヲシラベナサヤ。尙最近ノ同年ハ昭和何年デアツタカ、ソレヨリ後ノ同年ヲ五ツイヘ
- (2) 各學期ハ何日カシラベナサヤ。
- (3) 今年ノカレンジャーヲ作ツテ、第1日曜、第3日曜ハ禮日

- カ、今月ノ1日ハ土曜デアツタラ今月ノ終リノ日曜ハ禮日トナルト思フカ。
- (5) (6) (7)
- (8) 皆サンガ今朝何時分ニ家ヲ出タカ。若シ午後ノ3時5分ニ家ニカヘツタトシタラ何時間カ、ツテ井ルカ。
- (9) 教科書ノ問題
- (10) 只今ノ日ノ出、日ノ入ハ何時カ、暦デシラベナサヤ。ソノ日ノ出カラ日ノ入マデ何時間分カ。
- (11) 新宮カラ大阪マデ(汽車、汽船便ニテ)何時間カ、ルカ。尙ソレカラ東海道線ノ急行ニヨツテ大阪驛カラ東京驛マデ行クニ何時間カ、ルカ。
- (15) 主ナル工場ノ勤務時間ヲ調べテ計算シナサヤ。
- 70P 角 度 取扱上ノ注意
- (1) 分度器ニツイテ目盛ノ見方、ソノ用途ヲ知ラシメ三角定規ソノ他ノ物ノ角度ヲ測定セシムベシ。
- (2) 次ニ(12)(13)ノ問題ヲ課シ大体ノ觀念ヲ與ヘ
- (3) 1直角トハ90、ナルコトヲ知ラシメ、1度ガ60分、1分ガ60秒ナルコトヲ知ラシメルト共ニ諸等數ノ取扱ヲナサシムベシ。
- 76P 應用問題 8
- (2) 炭1俵ノ重サヲ復習シ次ニ各人ノ家ノ1ヶ月ノ使用量ヲ

- 調べ1日ノ使用量ヲ求メナサヤ。
- (4) 授産場デ1ヶ月間ヲ幾kgナラカ調べテ1日平均ノナラフサヲ計算ツテゴラン。
- ソレガ出来ラタ1人1日ドレダケナラフカ計算シナサヤ
- (5) 百姓ノ子供ニ田ヲタガヤス1日ノ廣サヲ調べサセテ之ニ對スル問題ヲ作ツテモラツテ計算シテゴラン。但、牛ヲ使用シタ場合ト使用シナイ場合トヲ區別スルコト。
- (6) 大人ノ給金ヲ女ノ給金トシテ計算シナサヤ。
- (7) 皆サンガオ城山又ハ神倉山ニ登ツタ時ノ高サヲシラベナサヤ。
- (8) 教科書ノ問題
- (9) 講堂ニ講堂用ノ腰掛ヲドレダケ入レラルルカ計算シナサヤ。次ニ1脚ニツイテ6人ヅハ坐ルト何人入レラルルカ又4年以下ノ生徒ガ入ツタトスレバ何分ノ入トナルカ。
- (10) コノ問題ヲヤルマヘニ和書トハボンナ本カ。又ハ洋書トハボンナ本カ調べナサヤ。
- (11) 學校講堂ヲ建テタ費用ハ1クハラカ。又寄附金ハソノ0.6倍アツタトスレバ寄附金ハ1クハラカ。
- (14) 工場ニ働イテキル人ノ1日ノ賃金ハ1クハラカ。ソノ人が12.8日働イタトスレバ賃金1クハラカ。但、0.8日ト1クハラハ雨天トト仕事ノ都合デ1日働カズニ午後ノ2時頃カヘ

- (15) ツタ撮合ヲイフ。
- (15) 坂5俵ハ12圓トアルガ、ソノ時ノ相攝ヲ計算シナサヤ。
- (16) 教科書ノ問題
- (17) 全上
- (18) コノ問題ヲヤル前ニ北舎ノ長サヲ
ヲ書キナサヤ。
- (19) 水道ノセンソノ不完全ナ所ヲ調べテ1時間ニドノ位出ルカ
計リ、次ニ1日ニ何程流レルカ計算シテイナサヤ。
- (22) 新宮勝浦間ノバネガ何時何分ニ新宮ヲ出テ何時何分ニ勝
浦ニツクカ。次ニ新宮勝浦間ノ正シイ距離ヲシラベテ1
時間ノ速サヲ求メヨ。
- (24) 以下實際ニツイテ測リナサヤ。

郷土化
された
算術科細目
尋五

鳴へ方 暗算一	加法 減法一	應用一 問題一	乘法 除法一	應用二 問題二	金高長 さ
信用組 及預金 貯蓄	信託 及預金 貯蓄	木材移 出統計 グラフ 作成	牛頭 調査	各學校 平均人 員調査	貨幣調 査
④四月 新宮市の人口調査、 和歌山縣人口調査、 日本の人口調査、本州四國…… 別に	一、預金貸付調査及累年統計 二、郵便局貯蓄高	一、木材移出販路別、種類別、グラフ作成	一、飼養頭數調査 二、一々年屠牛數一頭平均額調査 三、校地校舎の面積と児童一人當り 四、全額及一平方米當り費用 五、教室との比較	一、當校内各學年平均児童 二、當校内一學年平均児童 三、他校との比較	一、各種の貨幣調べ、及我が國の貨幣に對する知識 二、一平方米、机及圓形等の周りと圓の直徑との測定 三、圓の直徑と圓周との比較、それより圓周率の發見 三、自轉車の圓周と直徑測定及數回
人口表	信用組合 郵便局貯 蓄	調査表	調査表	調査表	實物及繪 圖 測定器
郷土 連絡 網	郷土 連絡 網				
備考					

面積一 面積測	體積 目方積	時間 復習	應用 問題三	分數 意義	暗算二 種類約	約分 同分
一、教室、テニスコート等の測定 二、花園の測定 三、北倉運動場の測定	一、家庭使用箱、米櫃、石油箱等の容積測定 二、水と塩水との重さの比 三、鐵の比重の研究	一、立春、八十八夜、二百十日、春分、秋分、夏至、冬至の調査 二、天候、氣温、雨量、統計グラフ作成 三、反別調査、農家及人員調査 四、農家一戸當り反別	一、我國の人口表 二、各種郵便物標本作成 三、各區別人口調査表作成	④九月 立春日より當日までの時間數、當日の天候觀察 一、各區別調査 二、各區別に對して	一、各區別に對して 二、遊見物に要する時間と料金調査 三、遊見物の距離	一、一米テープを三、六、九に切り 二、六分ノ二も、六分ノ四も、九分ノ六も長さの變りなきことの實驗
測定材料	各種の箱 水、塩、 大秤、上皿	計表 每日の統 計表	各種郵便 物及古切 手集め	風速計	調査表	テープ尺 及はさみ

形を變へるこ 切	加法二	減法	加法	三 加法	應用四	乗法二	乗法二	三 乗除法	應用五	小數を 分數に 直すこ と	復習二	應用六
實驗に依り假分數、帶分數に形をかへるとも長さに變りなき實驗	同一數字を分母子に掛けても價が變らぬことをテープにより實驗証明す	各學級の甲乙丙は全体の何分のいくつに當るか	一、圓錐形の瓶に入れて目測させ分數にて發表せしむ	一、以上それ／＼分數にて表はしめ二、それによつて一週間の正味の時間と休日を求めしむ	一、弟は兄の何分のいくつに當るか二、其他のもの高さ比べをなさしむ	一、國家のそれ／＼の長さを求めしめ、それ／＼をくらべしむ	一、各學級の出席者と在籍兒童數を調べてその率を計算せしむ	一、各學級の成績を課しその成績合計と人員とを調べその率を求めしむ	一、各學級の成績を課しその成績合計と人員とを調べその率を求めしむ	一、各學級の成績を課しその成績合計と人員とを調べその率を求めしむ	一、各學級の成績を課しその成績合計と人員とを調べその率を求めしむ	一、各學級の成績を課しその成績合計と人員とを調べその率を求めしむ
テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ	テープ尺 及はさみ

紙の製 突の製	新官市 の産物	扇形 の面積	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算	面積 の計算
二、その分數によつてそれ／＼の高さを求めしむ	一、市内の産物扇形グラフにより各産物の高さを求めしむ 二、尙新しい産物扇形グラフを作らしむ	一、比較圖表を作らしめる 二、種々の形の田畑について實地測量をなさしむ	一、木材の直徑を測り面積を求め、それに長さを乗じたものを 二、實地測量について實地測量及その料を	一、球の面積の求め方實驗をなさしむ 二、球の面積の求め方實驗をなさしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、尺貫法と米法との比較をなさしむ 二、米一俵の容積について尺貫法を米法に換算せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別により調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ	一、各人の家庭の調査をなさしめ、之を品種別ににより調査をなさしめ、之を品種別に統計せしむ
調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表

水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算	水道料 金計算
一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ	一、各月の温度表を作らしむ
調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表	調査表

6P 應用問題 1

- (1) 「其ノ1.5倍ノ矩形ガアル」中其ノトハ何か。ツノ1.5倍ノ長サハドノ位カ。矩形トハドナ形ヲシタモノカ、等ヲ明カニスル必要アリ。
- (2) (3) 共ニボール紙ニソノ問題ノ圖ヲ繪寫シ次ニコレヲ正シク切ラシメテ後ニ計算セシムベシ。
- (4) コノ問題ヲヤルマデニ種々ノ円形ノ器ヲ計算セシムベシ

18P 面積 1 取扱上ノ注意

- (1) (3) (4) ヲ先ヅ運動場又ハ講堂ニ於テ圖示シナガラ教授スルコト。
- (5) ハ兒童ニ正方針ト限定セズ鬼ニ角作ラシメテ次ニ正方針ト限定シテ作ラシムベシ。
- (6) 教具ニヨツテ十分説明シ種々ノ問題ヲ與ヘテ計算セシムベシ。
- (8) (9) ハ三角形ノトリガ自由ニシテモヨク。
- (10) 説明器ニヨツテ理解セシメ、ナホ教師用圖ニヨツテ0.785倍スル所以ヲ大体知ラシムベシ。



円ノ正方形ハ、外ノ正方形ノ 0.5
 AハBト若シ同大トスレバ
 円ノ廣サハ円ノ正方形ヨリモ 0.25
 大ナルコトガワカル。スルト
 円ハ正方形ト比較シタ場合ニ
 倍トナル。然シAトBトハ同
 大ニアラザレバ正方形ハ円ノ

0.785倍ナルコトが大體ヲカルヲテアル。

20P 体積 1 取扱上ノ注意

- (1) 1立方cmノ形ヲ與ヘテソノレゾレ計ラシム之ヲ1立方cmトイフコトヲ初メニ教ヘ、次ニソノモノヲ種々ニツツマシメテ一ツノ直方体立方体ヲ作ラシメテ、ソノ体積ヲ検証セシメテソノ計算ノ方法ヲ知ラシム。次ニ種々ノ形ヲ計算セシメテ(3)(4)ヲ練習サス。

- (2) ソノ問題ヲ3cm立方ト3立方cmトニ改メテ課スルコト。

21P 目方 取扱上ノ注意

- (1) 種々ノ物ニツテテ筋測又ハ實測ヲサシム。
- (2) 1⁰⁰株ヲ作ラシメ、ソノ量ノ觀念ヲ與ヘテ然ル後1⁰⁰ノ目方ヲ計ツテ1gナルコトヲ知ラシメ、水1lノ目方1立方mノ水ノ目方ヲ計算セシム。
- (5) 金ノ時價ニヨツテ計算シナサレ。

22P 時間

- (4) (6) ハ新宮市トシテ取扱ハレタシ。
- (7) 那智ヘ参ツタ時ノ計算ヲヤラスモ可。
- (8) ソノ年ノ春分、夏至ノ計算ヲナスベシ。

28P 應用問題 3

- (1) (2) ハ最近ノ統計ニヨツテ計算シ教科書ト比較セヨ。
- (3) 勝浦ヨリ申本、田邊、和歌浦、神戸、大阪ヲデノ計算ヲ

ナスベシ。

- (5) 急行船那智丸、牟婁丸ノソツトラ調ベテ、勝浦ヨリ前問題ノ各港ヲデノ行ク時間ヲ求メヨ。

- (5) 1反ノ長サハ何mアルカ調ベテコノ問題ヲナセ。

28尺曲尺 12.5尺×28=35尺 35尺+3.3尺=10.6m製

- (6)(7) 教科書ノ問題

- (8) 皆サンノ家デ1ヶ月白米何kg食ベルカ。次ニ1日ニ何程タベルカ。又平均1人1日ニ何程タベルカ。

- (9) 皆サンノ家ノ間數ト疊數ハイクラカ。又一疊ノ表替ハ何程カラ調ベテ、全部表替スルニ要スル費用ヲ計算セヨ。

- (10)(11)(12) 教科書ノ問題

- (13) —— (17) 郵便物ノ實物標本ガ郷土室ニアルカラ之ニヨツテ調ベナサレ。

46P 應用問題 4

- (6) コノ學級ノ生徒ノ体格検査ノ結果、甲乙ハ各全体ノ幾分ノ體ツニナツタカラ調ベテ、次ニ丙ハ何程ニナルカラ求メヨ。

- (7) 教科書ノ問題

52P 應用問題 5

- (1) 紀勢中線ノ汽車ノ速サニシテ計算シナサレ。
- (2) 那智又ハ牟婁丸ノ速サニカヘテ計算シナサレ。



76P 應用問題 7

- (1) ソノ年ノ立春ノ日ニヨツテ之ヲ計算セヨ。尙88日目又ハ210日目ヲ求ムルコトハ88夜210日ヲ求ムルコトデアル
- (3) ソノ年ノ夏至、秋分ヲ層ニヨツテ調ベ計算セヨ。
- (4) 製紙會社ニ於ケル勤務時間ヲ問ヒ合セテモラツテ之ニヨツテ計算セヨ。

- (11) 11入金風製容器ノ内法ノ差シテ測リ深サヲ求メヨ。
- (12) 鉛管ノ内法ト長サヲ測リ、ソノ容積ヲ求メ、次ニソノ中ニ水ヲ入レテ檢シテイヨ。
- (13) 教科書ノ問題



以上ノ圖ニヨツテモ2^rナルコトガアルガ、外ニ三角形ノ定規ニヨツテ、ソノ角ヲ測リ2^rナルコトモ知ルコトガ出來ル。又一直線上ニ三角形ノ相對應スルヲ描ケバ

- (4) 塩1俵ノ時價ヲ調ベナサレ。

- (5) コノ學校デ男生徒ハ女生徒ノ幾分ノ幾ツニナルカラ調ベテ上デコノ問題ヲ計算シナサレ。

(6) 教科書ノ問題

- (7) 皆サンノ家デ國旗ガ正シイカ、コノ問題ヲヤツテカラ測ツテゴラシ。

58P 應用問題 6

- (7) 校舎、オ城山、神倉山、千穂ヶ峯ヲ $\frac{1}{1000}$ ニシタ縮圖ヲ作ラシム。

- (8) 東京ヲ新宮市ト改メテヤリナサレ。

- (10) 市内ノ産業扇形グラフト生産總額ニヨツテ各種ノ生産高ヲ求メヨ。

- (13) 男子ノ賃金ト女子ノ賃金トヲ調ベテ、女子ハ男子ノ幾分ノイカツカヲ求メヨ。次ニコノ問題ヲヤリナサレ。

64P 体積 2

- (2) —— (4) 實物ニツテ計算ナサシムルコト。

- (6) —— (8) 學校ノ教具(實物)ニツテ計算セシメヨ。

球ハ之ガ入ル立方体ノ

- (10) 球ノ体積實數器ニヨツテ0.52倍ナルコトヲ考察セシメヨ尙球ノ直徑ヲ求ムル方法ヲモテベシ。

必ず一直線ニオササル。コレニヨツテモ知ルコトが出来ル。



- (15) 市水道課ニ於テ料金ノ計算方法ヲ調べ、各人ノ使用料金ヲ求メナサレ。
- 但、メートル設備セルモノ、設備セザルモノ其他ノ三種ニ別チテ計算セシムベシ。
- (17) 1ケ年ノ温度ヲ月別ニグラフヲ作ラシムベシ。
- (18) 當校調査ノ雨量表ニヨツテコノ問題ヲ求メヨ。

郷土化
された
算術科
細目
尋六

復比例	同上	應用間	反比例	正例式	比	要項
職工の賃金調査	高揚の調査	校舎、校舎敷地の調査	急行船の速力及乗浦各港間の距離と時間調査	自動車自走の速力調査	他校生徒数、本校生徒数との比較	郷土化
賃金の計を求むる計算	一、上記の物の影又四五度定規による測定をなさしむ	上中下各価格調査	一、那智、幸丸の速力及乗浦各港間の距離と時間調査 二、米の夫々の積載量を調査し市内の食料(米)一日に要する車輛数調査	一、自動車自走の速力調査 二、新宮より各驛間の時間計算	一、他校生徒数及本校生徒数の調査 二、各その比を求めしむ 三、尚同上男女別の比をも求めしむ	内 容
各種労働賃金表	測定器具	同上調査	同上調査	新宮熊野地区の牧種調査	他校本校児童数調査	郷土室 備考

同上	應用間	同上	分比例	同連比	同上	應用間	同上
市内面積調査	雨量調査	各社資本及配當金調査	講堂寄附金割合	方及の調査	輸出品の調査	耕作時間調査	市内各地の調査
市内各區面積、縣内各郡市面積グラフ作成	一、各月雨量グラフ作成 二、白米、麥、大豆、小豆等の價格調査	一、各社の資本金及配當金を調査	一、講堂建築に要する寄附金 二、各區の割當率調査 三、以上の割當により割當金高の計算	一、木炭の種數調査 二、目方の調査 三、それらの價格調査	一、各種輸出高の扇形グラフ作成	一、一アール耕作に要する時間の調査 二、所有耕作地の調査	一、重なる地所の價格を調査なさしむ
同上面積グラフ用紙	物價表	各種の調査	各種の調査	紙グラフ用	紙グラフ用	價格表	價格表

110111

農林部 農務局 統計課 日誌 第六

- (5) 急行船ノ速サハ何ノツト運搬船ノ速サハ何ノツトカ調ベナサヤ。ソシテ急行船ガ勝浦カラ大阪マデ10.5時カ、ルトスレバ運搬船ハ幾時間チ行クカ。
- (6) 6人ノ生徒ガ机ヲ講堂ヘ運フトスレバ各人が6回ゾ、運ゾ。今生徒ヲ3人増スト何回運ベハヨイカ。

8—9p 應用問題 1

- (1) モス1反ノ代ヲ4圓51錢スレバ7mノ代ハ幾ラカ。1反ヲ11米トシテ計算セヨ。
- (2) 先生ノシラベタ所ニヨルト自轉車ハ毎時16軒、自動車ハ毎時35軒走ル。今、自轉車ガ2時40分カ、ル所ヘ自動車ヲ走ルト何時間分カ、ルカ。
- (3) 1台ノ荷車ニ米ヲ幾俵積ムルカ。又荷物自動車デハ幾俵積ムルカ調査シナサヤ。今車デ30回ニ運ベル米ヲ荷物自動車デ運フトスルト何回デ運ベルカ。
- (4) 製練會社チ男2人分ノ賃錢ハ女3人分ノ賃錢ト同ジデ、男1人分ノ賃金ハ1圓20錢デアルト女1人分ノ賃錢ハ1クヲカ。
- (5) 圓ノ直徑ヲ7cmトスレバ周ハ幾cmトナルカ。ソコデ圓ノ周ガ直徑ニ對スル比ハ22ト7トノ比デアルコトヲ比ベテ考ヘヨ。

14—15p 複比例

- (6) 正方形ノ1邊ト對角線ノ比ガ5.7デアルコトヲ實際ニツイテシラベテゴラン。
- (7) 運動場デ20cm尺ヲ垂直ニ立テ、ソノカゲヲ計リ、次ニ國旗掲揚台ノカゲヲ計ツテソノ高サヲ求メヨ。
- (8) 鋼ト船トノ正シイ立方體ヲ作ツテモラヒ、次ニ正シイ立方體ノ金屬製ノヤスヲ作ツテモラヒ、ソノヤスニ一ババノ水ノ目方ト鋼船ノ目方ト計ツテゴラン。ソノ重サノ比ハバノ位ニナルカ。
- (9) 水トアルコルノ同ジ容積ノ目方ヲ比ベナサヤ。
- (10) 11P、(8)ノ問題ハ實際ニツイテ實驗シテカラ計算シナサヤ。
- (2) 木場ノ職工1人1日ノ賃錢ヲ調査シテ次ニコノ問題ヲ計算シナサヤ。
- (3) コノ問題ヲ牛トシ牛1匹ガ1日間ニボノ位耕スモノカ調査シテコノ問題ヲ計算シナサヤ。
- (5) 中舎ガ落成スルマデニ大工1人延日數何日カ調ベテ後ニコノ問題ヲ計算セヨ。
- (8) 普通ノ日雇賃1人1日何程カ調ベテカラコノ問題ヲ計算セヨ。

- (9) 農夫ガ普通1日ニ田ヲドレダケ耕スカ調ベ、次ニコノ學級ノ子供ノ家ニ所有スル田ヲ調ベテ、全部ヲ12日ニ耕スニ何人1ルカ計算セヨ。
- (10) 皆サンノ家ノ間口ト奥行トノ長サハドレダケアルカ調ベ、次ニ皆サンノ家ノ地所價格ハ全部デ幾ラ位カ調ベナサヤ。次ニコノ問題ヲヤリナサヤ。
- (11) 毎日1人ガ6dlヅ、オ米ヲ食ベルトシテ皆サンノ家ノ家族ガ1ヶ月ニ食ベルオ米ヲ若シ1人他所ヘ行ツタトシテ毎日8.5dl食ベルトスレバ何日食ベラレルカ。

18p—19p 應用問題 2

- (1) コノ學校ノ男女生徒數ハ各幾人カ。又女生徒ノ男生徒ニ對スル比ヲ求メヨ。
- (4) 讀本ト算術書ノ縦及ビ横ノ比ヲ求メヨ。次ニ面積ノ比ヲ求メヨ。
- (5) 菓子箱大小2個ノ夫々縦横高サノ比ヲ求メ、次ニコレニ入ルカスレテラノ體積ノ比ヲ求メヨ。
- (6) 只今白米5kgノ代價ハ何程カ調ベヨ。次ニ皆サンノ家ニ食ベル1ヶ月ノ米代ヲ求メヨ。
- (11) 昨年中ニ當市ヨリ輸出シタ主ナル品トソノ價格ヲ調ベ扇形グラフヲ作リナサヤ。

- (14) 皆サンノ家ニ使ツテ井ル炭1俵ノ重サトソノ價格ヲ調ベナサヤ。ソレト同ジ炭1俵kg入8俵ノ代ハ幾ラカ。
- (16) 正方形ノ面積ハ一邊ノ長サノ2乗ニ比例スルコトヲ實際ニシテゴラン。
- (17) 圓モ前問題同様實際ニシテゴラン。
- (19) 「(5)」ノ問題ニ於テ大ナル方ノ菓子箱ノ容積ヲ求メ、次ニ縦横高サノ比ニヨツテ、小ノ菓子箱ノ容積ヲ求メヨ。
- (20) 共ニ積ノ長サノ3乗ニ比例スルコト。直徑ノ立方ニ比例スルコトヲ實際ニ計測シテ檢シナサヤ。
- (22) 大小2個ノ卵ニツイテ長サノ比ヲ求メ、次ニ大ナル方ノ體積ヲ計ツテ小ナル方ノ體積ヲ求メ、後計ツテ檢セヨ。

24—27p 比例配分

- (2) 8歳ノト12歳ノノ2人ノ兄弟ガアル。叔父サンカラモラタ1圓ヲ年數ニ比例スルヤウニワケタラ各幾ラカ
- (4) 姉妹2人ノ着物ヲ作ルノニ5:3ノ割合ニ切ガ1ル。今12米ノ切ヲ各幾米ヅ、ニ切レバヨイカ。
- (5) オ父サンガ25日、隣リノ叔父サンガ22日働イテ84.8圓モラツテ來タ。ポンチニワケタラヨイカ。
- (9) 甲乙丙ノ3人ガアル。甲ガ7000圓、乙ガ600圓、丙ガ500圓出シテ工場ヲ作ツテ商賣シタトコロ、ソノ年ニ5400圓

- ノ利益がアツタ。コレヲ如何ニ分配スレバヨイカ。
- (13) 萬年筆ノ金ペン14本ト書1テキル。ソレハ金14ニ對シテソノ他ノ金屬が10ヤセテキルトイフトコロデアル。今古1金ペンノアツタ目方が128アツタラ金ハ何人入ツテキルカ。
- (16) 新宮市ノ尋常科ハ蓬萊校28、堀地校24、丹鶴、三輪崎校ハ各12學級アル。今學級數ニ應ジテ100圓附金セントスレバ各校何圓出セバヨイカ。但、圓未滿ハ切捨テ不足分ハ市教育會カラ出スモノトス。

28p—31p

應用問題 3

- (1) 今月カラ3月26日マデ何日アルカ。但、來年ハ平年カ閏年カラ考ヘテ計算セヨ。
- (2) 6年ニナツテカラ今日マデノ中デ最モ多ク雨が降ツタ日ハイツカ、ソノ日ニドノ位降ツタカ。又平均1時間ニ何耗降ツタコトニナルカ。
- (3) (4) ハ普通目方デ買フコトニナツテキルノデ各1kgニツキ何程カ調べテ置キナサイ。
- (6) 第6學年ノ全生徒數男女41ゾレガ多1カ、生徒ノ數ヲ知ツテ男女各ノ生徒數ヲ求メヨ。
- (8) 算術書、讀本各8冊ノ代ハ合セテ1圓44錢デ、讀本ノ方ハ

4錢高1ト各1冊ノ代ハ1クラカ。

(9) 1000ノ文字ヲ綴リ方用紙ニ書クトスレバ何枚アルカ。又最後ノ頁ノ餘白ノ所ハ何字分アルカ。

(10) 學校市田ノ橋マデテ296mトシテ、道ノ兩側ニ地カラ地マデ8mヅ、隔テ、櫻ノ木ヲ植エルト皆デ同本1ルカ。

(12) 昭和10年3月ニ行ハレタ新宮高等女學校ノ入學試験ニ合格シタノハ168人デ受験者ノ八分ノヒデアツタ。受験者ハ皆デ幾人カ。

(14)

36p—40p

應用問題 4

(1) 新宮市ニ於テ昨年ノ米ノ産額ハ幾トカ。若シ麥ノ産額が米ノ3割5分デアツタラ麥ノ産額ハ幾ラカ。

(4) 蓬萊校ノ女先生ガ若シ先生全体ノ3割デ9人キルトシタラ男先生ハ全体ノ何割デ何人カ。

(5) 王子製紙會社ノ職工ハ男女各何人カ調べナサイ。若シ女工ガ32人キテ全職工ノ4%デアルトスレバ全職工ハ皆デ何人カ。

(6) 本校ノ6年生ハ全生徒數ノ約何割何分ニアタルカ。若シ6年ガ全体ノ1割6分デ279人キタラ本校ノ全生徒ハ幾人カ。

(7)

(8) 新宮市ノ人口ハ何人カ。若シ本年末ニ2%増シ更ニ來年末ニ2.5%増ストスレバ來年末ノ人口ハ幾人カ。

(9) コノ學校ノ校地面積ハ何程カ。又校舎ノ面積ハ何程カ。校舎ノ面積ハ校地全面積ニ對シテ約幾割幾分ニアタルカ。若シ校舎ノ面積ガ2割2分トナレバ校舎以外ノ土地ハ何程カ。

(10)

(11) 或學年ノ生徒ハ皆テ24人デソノ中7点以下ノ生徒ガ7割5分デアツタ。8点以上ノ生徒ハ何人カ。

(12)

(13)

(14)

(15)

(16) 昨年本校全生徒ノ身體検査ニ於ケル發育概評甲乙丙ノ各ノモノハ數ラグラフニ作リナサイ。又甲乙丙ノ各ノモノハ生徒全体ニ對スル歩合ヲ百分率デ求メ且扇形グラフヲ作リナサイ。

40p—43p

損益ニ關スルモノ

(1) 煙草店デ普通賣上高ノ1割ノ利益ガアルトイフ。今1ヶ月

1111

250圓ノ賣上ガアルトスレバ1ヶ月何圓ノ利益ガアルカ。

(2) 大阪へ材木3500圓ノ價格ノモノヲ送ツタラ5分損ヲシタ。何圓ノ損失カ。

(3) アル米屋ガ1俵16.8圓ニ買入レテ1.512圓儲ケタトイフ利益ノ歩合ハ何程カ。

(4)

(5) 或ル小賣菓子屋デ或ル月ノ利益ガ21圓デ、ソレハ仕入値段ノ3割5分ノ利益ダトイフ。仕入値段ハ何程カ。

(6)

(7) アル人が1230圓デ買入レタ畑ヲ3割6分儲ケテ賣ツタトイフ。101クラニ賣ツタノダラウ。

(8)

(9)

(10) 一反8圓70錢ノナイセンヲ1割引1テ買フトイクラ拂へバヨイカ。

(11) 或品ヲ96圓デ賣ツタ所ガ店デハ2割8分ノ利益ガアルサウダ。コノ品ノ原價ハ何程ダラウ。

(12)

(13) 市内ノアル土地ヲ友人カラ5920圓ニ買ツタ。所ガ友人ガ7分5厘ノ損ダトイフ。友人ハ1クラニ買入レタノデアラウ。

1111

- (14) 中ノ町ノアル店ノ安賣デ12圓40錢ノ札ガツクナキタ反物ガアル。コレハ定價ノ8掛ノ代ダトイフ。コノ品ノ定價ハ幾ラデアツタカ。
- (15) アル品ニ4割ノ利益ヲ加ヘテ3圓50錢ノ定價ヲツクタモノヲ2圓80錢ニマケロトイフ。若シソレニ賣ルトイクラノ損カ又益カ。
- (17)
- (18)
- (19)
- (20) 成人ガ8aノ土地ヲ或ルゾローカーニ賣ツテモラツタ。ソシテ5分ノ手数料ヲ拂ヒ5700圓ヲ得タ。1a1クラニ賣ツタカ。

44p—47p 租 税

- (1) 皆サンノ家ニ特ツテキル田畑、宅地、山林ハ何程アルカタクネテ置キナササ。尙出來得ルナラソノ地價ヲ土地台帳ヲ開ベテモライナササ。ソシテ地租宅地ノ税額ヲ計算シテ置キナササ。
- ソレカラ1—5マデハ皆サンノ家ニ持ツテキルモノトシテ計算シナササ。

- (13) 利率 (勿論會商期限ニヨツテ異ルケレドモ普通ニ何程位ニナルカ)ヲ調査シテ置キナササ。
- (14) 次ニコレニヨツテ年利、月利、日歩等ニ換算シ置キ(1)——(8)ノ問題ヲ計算シナササ。(9)——(12)コノ問題ハ以上ノ利率デヤリナササ。
- (15)
- (16)
- (17)
- (18) ——(24)ノ日歩ハ當地通用ノモノトシテ計算ラシナササ。但シソノ時ノ事情ニヨツテ高低アルコトニ氣ヲ付ケナササ。
- (25) コノ問題ノ利率ヲ當年デハ9分9步又ハ9朱トモ言ヒマス。
- (26) コノ問題デ信用組合預金ノ利息ニハ所得税ガカラレナイデアルコトモ知ツテ置キナササ。
- (27)
- (28)
- (29)

- (6) 新官市ノ地租ニ對スル附加税率ハ何程カ。又田邊町、海南市、和歌山市ノ附加税率ヲモ調ベテ比較シナササ。ソノ上デコノ問題ヲヤリナササ。
- (7) ——(9)コノ問題ヲヤルマヘニ各自ノ家ニ所得税ヲ納メテキル家ガアルカ。又何程納ムルカ調ベナササ。又今一ヶ月ノ給料皆デ200圓ノ人ハ毎回何程ノ所得税ヲ納ムルカ計算シテゴザン。
- (10) 當市ノ所得税ノ附加税ハ本税ニ對シテ何程カ調ベナササ。今當市デ12圓ノ所得税ヲ納ルル人ガ市ノ附加税ハイクラカ。
- (11) 皆サンノ家ニ營業收益税ヲ納メテキルカ調ベナササ。今1ヶ年ノ營業ノ純益ガ23500圓デアルト何程納ムルカ。
- (12)
- (13)
- (14) 皆サンガ25000圓ノ家督相続ヲシタトスレバ何程ノ相続税ヲ納メナケレバナラヌカ。税率ハ教科書(14)ニヨル
- (15) 以上ノ問題デ各種ノ租税ノ税率表(本税附加税トモ)ヲ作ツテ置キナササ。

48p—53p 利 息

- (1) コノ問題ヲヤル前ニ信用組合前ハ大小銀行、無盡會社デ

- (30) 當地ノ銀行デ借入又ハ返シ濟ノ日ヲ期間中ニ繰入ルカドクカ調査シテカラヤリナササ。
- (31) 郵便貯金ノ利率ハドレダケカ調ベナササ。

54d—57p 公債株式

- (1) コノ問題ヲヤル前ニ各種公債、國債、縣債、市債及ビ銀行、會社等ノ株券ヲ一時借入セラレルモノハ持ツテ皆ニ見セテヤリナササ。
- (6) ——(9)コノ問題ヲヤル前ニ當地ノ株式會社及ビ會社ノ1株ノ額面高現在繰込金額又ハ配當率等ヲ調ベナササ。
- (14) ——(18)公債株式ハソノ時ノ經濟狀態ニヨツテ賣買ニヨツテ變動アルコトハ毎日ノ新聞紙上ニ明カデス。新聞ヲ取ツテキルモノハ新聞ヲ持ツテヤチ、ソレニヨツテコノ問題ヲ計算シテゴザン。

58p—61p 應用問題 5

- (1) 當市費總計ニ對シテ教育費ハ何割ニ當ツテキルカ調ベテ教育費ヲ計上シテゴザン。
- (2)
- (3)
- (4) 大賣出シデ洋服ヲ定價ノ1割5分引ニ賣ツテ3圓40錢ヲ

據ツタ。定價ハ何程カ。

- (5)
- (6)
- (7) 自分ノ家ニ何程ノ地租ヲ納ムルカ。又何程ノ土地ヲ持ツテキルカ調ベテ、コノ問題ヲサリナサシ。
- (8)
- (9)
- (10)
- (11)
- (12)
- (13)
- (14) コノ問題ハ測リ方並ビニ讀ミカタ數ヘラレタラ自分ヲ作ツテゴラン。

68p—65p

應用問題 6

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5) (6) 今白米1モス(普通ノモノ)一反ノ價格ヲ調ベテカラヤツテゴラン。

(7) 本校一學級ノ生徒男女各平均ハ何人カ。但男女合算ノモノハ除ク。

- (8)
- (9) コノ問題ハ運動場ニ於テ實地ニツキ計算シナサシ。
- (10)
- (11) オ友建甲乙丙三人ガ那智船ヲシテ甲ハ三人分ノ汽車賃、乙ハ自動車賃、丙ガ辨當代ヲ出シテ之ヲ換算スルニハ如何ニシタラヨイカ考ヘヨ。
- (12) 本年度ニ於ケル本校児童ノ平均身長體重ヲ各學年男女別ニ之ヲ調査シテグラフヲ作リナサシ。

66p—67p

應用問題 7

- (1)
 - (2) —— 4ヲ豫メ運動場ニ白線ヲ引イテ置イテ實際ニツキテ計算シナサシ。
 - (5)
 - (6) 手工ノ時間ニ各自ノ形ヲ作ツテ計算シテゴラン。
 - (7) テニス又ハ野球スル時ノ體積ヲ計算セヨ。
 - (8) コレヤデナラツタ金屬ノ比重一覽表ヲ作ツテゴラン。
- 69p—71p

應用問題 8

(1)

- (2)
- (3) 大阪商船勝浦大阪間急行船ノ速サガ毎時13哩トシテ勝浦申本ヲ1 $\frac{1}{3}$ 時間カハツタトシタラ、ソノ間ノ航路ハ幾哩カ。

- (4) 皆サンガ日曜日ニナツタ事ノ時間ヲハタツテコノ問題ノヤウナ問題ヲ作り計算シテゴラン

- (6)
- (7)
- (8)
- (9) 60度三角定規ノ各角ハ何度カ。分度器ヲ計ツテゴラン。次ニ90度ノ角ハ60度ノ角ヲろ其他ノ角ヲはトシテろハイノ幾分ノ幾ツカ。はハルノ幾分ノ幾ツカ計算シナサシ。

72p—73p

應用問題 9

- (1) 飛行機ノ種類ニヨツテソノ速サハチガフ。ソレヲヤツ調ベテ置キナサシ。
- (2) 家ノ時計ハ一晝夜ニ何程進ムカ遅レルカ調ベヨ。
- (3)
- (4)
- (5)

- (6) 綴リ方用紙一枚ニ讀本ノ文ヲ寫スニ何分カハルカ計ツテゴラン。
- (7) 六年ノ生徒ガ熊野川ヲ渡ルトシテ8艘ノ船ヲ1艘ニ10人ヅハ乗ツタラ何回ヲ運ビ得ルカ。今6艘ニシテ1艘ニシテ15人ヅハ乗セルト何回カハルカ。

74p—75p

應用問題 10

- (1)
- (2) 昨年度ノ本校卒業生及中等學校入學者ヲ調べ、卒業生全體ニ對スル中等學校入學者ハ幾パーセントニ當ルカ。次ニ男女別ニシテ計算セヨ。
- (3) 當校ノ $\frac{1}{500}$ 縮尺平面圖ヲモラツテ校舍ト講堂ノ面積ヲ求メナサシ。次ニ講堂ハ校舍ノ何割何分ニナルカラ計算シナサシ。

(4)

(5)

- (6) 自分が住ンデキル土地ノ地價ガ凡ソ何程スルモノカ知ツテ置キナサシ。

76p—77p

應用問題 11

- (1) —— (4) 當地通用ノ利率ニカヘテ計算シナサシ。

(6) 新宮鐵道株式會社ハ昭和九年ニ國鐵トナツタノデアルガソレ以前ハ1株50圓ノ株式ガ75デ賣買サレタコトガアル。ソノ頃年1割2分ノ配當ヲサレタ。利題ハ年何程ニナツテキタカ。

78p—81p 應用問題 12

- (1) 今年ハ紀元何年カ。又 今上陛下ガ御幸ナサレタノハ昭和何年カ。又紀元何年カ。
- (2) 大正15年12月25日 大正天皇崩御アリ。同日 今上天皇陛下即位セラレ昭和元年ト改元サレマシタ。俄ノ保險金ガ大正20年4月ニモラフコトニナツテキルガ、是ハ昭和何年ニアタルカ。
- (3) 今年ハ西暦何年カ。又大正3年カラ同8年ニカケテノ世界大戰ハ西暦何年カラ何年マデ續イタカ。
- (4) ノ問題ニヨツテ本年ハ平年カ潤年カシラベヨ。
- (5)
- (6)
- (7) 當地デメートル器取付ノ電燈料金ヲ計算スルニハ1燈ニツキテ1キロワツト時ヲ最低電力料金トシ1キロワツト時ヲ18錢。ソレヲコヘルト1キロワツト時毎デモ18錢デアル。外ニメートル器貸付損料トシテ50錢ヲ支拂フコト

ニナツテキル。今15燈取付ケテキル家ニ一ヶ月18キロワツト使用シテ居レバ何程支拂フカ。

- 注意 1 マートル器取付ハ10燈以上取付ケバナリマセン。
- 2 1燈ニツキ1キロワツト時最低電力料金デアルカラ10燈取付ケテキル家ニ8キロワカ使用セナクトモ10キロワツト時トシテ計算サレルコトヲ忘レテハナラス。
- (8) 次ノ電文ヲ頼信紙ニ書キ且ツソノ料金ヲ計算セヨ。
「今宮鐵工學校ニ入學シタシ規則書送レ」
大阪市北區東野田三ノ九 山本 春夫 自身ノ名
- (9)
- (10) 大歌謡カラ東京關鐵道省線3等賃金ヲ計算シテゴラン。

目的

一、郷土に於ける史料を有機的に取扱はんとするものでなく國史内容に織り込んで如何に郷土人の活躍せるか、又諸事象が中央を動かせるかを追想せしめ自覺と發奮と感謝の念を養はんとす。

方法

二、我が郷土の特種相を感知せしめると共に益々新興郷土への建設の爲め如何なる應自相にあらしむべきかを究明せんとす。

1 過去、現在、將來へと一貫せる史的觀察の能力の養成に着目す。

2 郷土人の史的發展は大いに關聯し郷土愛より祖國愛へと止揚せん。

郷土化による 國史教授の取扱

第三課 (本日)

速玉神社
御創建
(三山)

水鏡に「景行天皇の五十八年(七八八)新宮は始まり給へり」とある。御遷跡は、大正十一年(一九二一)三月廿三日熊野神宮南方「慶應」に降給。大正十一年(一九二一)三月廿三日熊野神宮南方「慶應」に降給。大正十一年(一九二一)三月廿三日熊野神宮南方「慶應」に降給。

五年七月
熊野三山
繪三山

第五課 (皇天德仁) 第九課 (武皇天)

皇后熊野
に御遷幸

仁徳天皇三十年(紀元一〇〇二年)熊野年鑑に據る。十一月行幸熊野。至正月還御。險坂をいとはず熊野御遷幸の程御皇恩の深きに感泣せしに居られず。元明天皇(和銅六年)木の國を紀伊國と改めらる。王津島明光浦行幸により風光天下に稱へられ現在に及ぶ。

第三課 (眞道原管)

三山行幸

一五一九年 清和天皇 貞觀元年 熊野三神社に神階を授け給ふ。一五六七年 宇多上皇 熊野三山に行幸し給ふ(延喜七年十月)行幸の御光景。宮地直一博士續神祇史に據る。里程八十里。日數大凡一ヶ月。嚴重なる精進し九十九王子に幣帛を捧げられ祈念せられ險山難路を通り本宮に着し寶前に額づく事となれば感涙禁じ難しと三山に對し給ふ御崇敬のいかに深甚におはしませしかを拜仰すべきなり。崇徳天皇大治二年(一七八七)白河上皇御最終の三山御幸遊さる。新宮十郎(義家)○爲義(義朝)義經(八男)義頼(十男)新宮十郎義盛(十男)紀元一七八七年頃。源爲義來熊し丹鶴姫生れ十子義盛似仁王の密使となりて諸國の源氏を奮起さす。清盛等參詣せんとす。紀元一八一九年。平清盛、三山に參詣せんとして京都を出發するや義朝、信賴兵を擧げしかば(平治の亂)歸る。

第三課 (澄最空)

東仙寺創
建
熊野(別宮)

東仙寺創建。弘仁七年(八二六)弘法大師國を編歴して清水大に遺跡をとむ。眞言宗高野派高野山金剛華寺末な由來。大師禪定の遺蹟を求め給はんが爲め諸山を經遊し神宮(新宮)に來り田鶴原を過ぎし時此の原に大木ありて其の上には群鶴宿り子を育つ。大師木の下に行けば白髮老翁あり大師に曰く「我れは是神宮の神なり。昔此の大木を伐り我が内殿佛を彫刻して業病難化の群生を救済し給へ」といひて失せぬ。大師、本尊阿彌陀如来、藥師如来、千手觀世音菩薩を刻み一字の草堂を創建當時城山にありしを明治二十九年十二月の大火に會ひ現地に移轉新築す。最澄の母親は佐野石垣家(眞木氏)より出で母の在所をしたひて來り藥師如来(熊野七佛ノ一)を造る。現在には太田の大体寺と佐野の南嶽寺のみあり。三黨に變るに別當熊野の地を治む。眞言宗(弘仁七年)

四年十一月
東仙寺
眞言宗

第六課 (盛重平)

平重盛三
山に參詣

紀元一八四六年。後白河上皇 三山行幸。前後御三十四度の多きに及び如何に御崇敬、御關係深きかは知らる。紀元一八三一年。平重盛 三山に參詣す。速玉神社の造營記念のため竹柏の木を植えられ現在にても老ひ茂る。紀元一八四六年。平重盛 熊野に入る。紀元一八四一年。新宮十郎行家(丹鶴姫の弟)平軍を志願に破る。大楠公と紀州。紀州は早くより水軍(海軍)の活躍が目覺ましく、常に忠勤をぬきんでたり、神武帝の熊野御遷下の際然り特に大楠公の忠誠により熊野は統制の配幸として河内、和泉の一部の軍勢と共に勳王の軍に加はり紀州の面目を顯揚せり。淡川戰役。延元元年五月二十五日正成公淡川に於て忠死さる、際下たる我紀州の海軍が賊將足利尊氏の軍勢を打破るべく馳参じたりと前後の活躍より推察し得る事が出来る正成公の淡川に望む際は色々の説あるも必ず勝算あるものとして出陣した、然るに我紀州の軍勢が五月二十五日(七月十二

御製
「わするなよ雲は
都をへたつとも
なれて久しきみ
くまのよ月」

(三山社殿) 紀元一八五一年 源頼朝三山に社殿を造營す	(り起の治政家武) 課元第 三山行幸 正治元年一八五九年八月 承久三年一八八一年正月 御二十三度行幸遊さる	(皇上羽鳥後) 課三第 三山行幸 正治元年一八五九年八月 承久三年一八八一年正月 御二十三度行幸遊さる
日)には西風の遺風を受け而も小舟の事とて閑筆をなせり、賊軍にとりては遺風にして眞に好都合にして尊氏の水軍を破る事得ざれば正成公忠死せり、と考ふる事得、中にも色川氏、小山氏の活躍目覚ましきものなり、されど中には不利により賊軍に着くものあり。 (魚屋惣五郎教授講演による)	地形的の爲め小區劃に依る割據にして大なるもの無けれども甚だ鞏固なり 海上の戦士現はる 建武中興の二大中心人物を援助して其の功績を所著ならしめたる武勳は特に建武に當つて益々忠節を盡せる紀州武士の面目躍如たるものあり此の特異性を強調せん。	「はるはるとさかしき味を かけ過ぎて 昔無川をけふ見つるかな」

(北房) 課三第 此の頃より野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す	(吉秀臣豊) 課三第 紀元二二四〇年 秀吉明智光秀を破るに當り堀内氏善味方して七千石加増せらる 氏高(宮内少輔) 氏善(安房守) 行朝(若狹守) 氏虎(主膳) 氏久(主水) 氏水(主水) 氏久(主水) 氏水(主水)	(北房) 課三第 此の頃より野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す 野朝の御爲めに奮闘す
後付上天皇 正平三年 熊野清盛正行に味方し高師直を討つ正行戦死後九州に下向し吉野朝の御爲めに奮闘す 此の頃より熊野別當に變り七人上朝執政者となる	紀元二二四〇年 秀吉明智光秀を破るに當り堀内氏善味方して七千石加増せらる 氏高(宮内少輔) 氏善(安房守) 行朝(若狹守) 氏虎(主膳) 氏久(主水) 氏水(主水) 氏久(主水) 氏水(主水)	紀元二二四〇年 秀吉明智光秀を破るに當り堀内氏善味方して七千石加増せらる 氏高(宮内少輔) 氏善(安房守) 行朝(若狹守) 氏虎(主膳) 氏久(主水) 氏水(主水) 氏久(主水) 氏水(主水)
紀元二〇〇八年 後付上天皇 正平三年 熊野清盛正行に味方し高師直を討つ正行戦死後九州に下向し吉野朝の御爲めに奮闘す 此の頃より熊野別當に變り七人上朝執政者となる	紀元二二四〇年 秀吉明智光秀を破るに當り堀内氏善味方して七千石加増せらる 氏高(宮内少輔) 氏善(安房守) 行朝(若狹守) 氏虎(主膳) 氏久(主水) 氏水(主水) 氏久(主水) 氏水(主水)	紀元二二四〇年 秀吉明智光秀を破るに當り堀内氏善味方して七千石加増せらる 氏高(宮内少輔) 氏善(安房守) 行朝(若狹守) 氏虎(主膳) 氏久(主水) 氏水(主水) 氏久(主水) 氏水(主水)

(宗吉川徳) 課三第 産業の奨励 文武の道 自分から進んで勵ます、家康と並ぶ達人となる 捕鯨に托して水軍を練る 寄りに學問所を設け盛なる事天下	(康家川徳) 課三第 紀元二二七四年 大阪夏の陣と熊野 新宮城と 紀元二二七九年 水野第一代重伸城主となる 新宮城竣工す	(宗吉川徳) 課三第 産業の奨励 文武の道 自分から進んで勵ます、家康と並ぶ達人となる 捕鯨に托して水軍を練る 寄りに學問所を設け盛なる事天下
三分治制 紀北—和歌山城 口熊野—上野山城(杉若越後守) 奥熊野—新宮城(堀内安房守)	紀元二二七四年 大阪夏の陣起るや氏善の子行朝氏久兄弟眞田幸村の味方し奮戦す 紀元二二七八年 淺野右近太夫忠吉 新宮城着築す 紀元二二七九年 水野第一代重伸城主となる 新宮城竣工す	産業の奨励 文武の道 自分から進んで勵ます、家康と並ぶ達人となる 捕鯨に托して水軍を練る 寄りに學問所を設け盛なる事天下
紀元二二七四年 大阪夏の陣起るや氏善の子行朝氏久兄弟眞田幸村の味方し奮戦す 紀元二二七八年 淺野右近太夫忠吉 新宮城着築す 紀元二二七九年 水野第一代重伸城主となる 新宮城竣工す	紀元二二七四年 大阪夏の陣起るや氏善の子行朝氏久兄弟眞田幸村の味方し奮戦す 紀元二二七八年 淺野右近太夫忠吉 新宮城着築す 紀元二二七九年 水野第一代重伸城主となる 新宮城竣工す	産業の奨励 文武の道 自分から進んで勵ます、家康と並ぶ達人となる 捕鯨に托して水軍を練る 寄りに學問所を設け盛なる事天下

(正大) 課三第 御來新 大正四年 朝香宮殿下お成り遊さる 大正八年 速玉神社官幣大社となる 大正八年 北白川宮殿下お成り遊さる	(皇天治明) 課三第 紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次	(皇天治明) 課三第 紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次
大正四年 朝香宮殿下お成り遊さる 大正八年 速玉神社官幣大社となる 大正八年 北白川宮殿下お成り遊さる	紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次	紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次
大正四年 朝香宮殿下お成り遊さる 大正八年 速玉神社官幣大社となる 大正八年 北白川宮殿下お成り遊さる	紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次	紀元二二五二年(明治二年) 第十一代水野忠幹版籍奉還す、新宮藩知事に任ぜらる 紀元二二五三年(明治四年) 新宮藩を廢し新宮縣を置く、後和歌山縣となる A 速玉神社社務となる明治四年 B 明治十六年速玉神社炎上す C 明治二十三年トルコ軍艦遭難す D 明治二十七年速玉神社假造營す 西南の役三名出征 日清戦役出征兵士十六名 日露戦争 郷土出身出征兵士三三九名 上海事變出征兵士 海軍艦隊一等水兵原英雄等の乗艦 一等水兵大西武扶榮乗艦 河尾三次

(皇天上今)課警第	
日獨戦争 日獨戦争 出征兵士 一名 攝政の宮御來和 大正十一年十二月一日皇太子殿下 として海軍加田町に第一歩を印 せらる	北白川宮殿下成久王殿下 大正八年八月十八日午前九時の 列車着御場地小學校に於ける隨 軍團點呼場に御座全二十三 日奉送す
昭和四年 山階宮茂慶王殿下お成り 遊さる山階宮茂慶王殿下御來新 熊野三山御参拜のため十月十四 日着御翌日御出發奉送す	(四國に於ける特別大演習の際)
市制施行 全年六月二日 につき 聖上陛下兩紀行奉遊さる	
宮殿下の 御來新 李王殿下 尼港殉難者遺骨出迎 大正九年七月二十七日 中村海軍主計少佐、職員兒童出 迎をなす	
滿洲上海事變 市制施行	
昭和八年十月一日 東久邇第四師團長宮殿下御來新 昭和十年一月二十四日	六年五月 忠魂碑奉 照
市民と市 役所	

郷土化 による 理科教授の取扱

目的

理科教育の本質として事物事象の實際觀察を重んずるがためには、學習材料を兒童生活に最も關係深き郷土に取り、郷土化して授け處に郷土の理解によつて將來に向つて開發の暗示を與ふるを要す。

取扱方針

- 1 理科教育の本質上より郷土中心の細目を作製する。
- 2 郷土理科地圖を作製し教授學習の便を図る。
- 3 郷土の産業、工業、畜産と連絡し其の理解を計ると共に、發展に貢獻せんとする精神を涵養す。
- 4 天文氣象に關する教材は郷土中心に繼續觀察をなす。
- 5 兒童の理科的生活の調査を重要視す。

郷土化
された

理

科

細

目

尋
四

郷土化された理科細目

1. 郷土の自然環境の調査と整理
2. 郷土の産業と生活
3. 郷土の歴史と文化
4. 郷土の地理と交通
5. 郷土の社会と教育

課一 (らくさ)	課三 (らぶあな)	課四 (ろしんもふて)	課五 (じつつ)
さくら	な	ろもてんし	つもちつつ
一、校庭に咲くさくら観察 二、山標……正門入った所 三、さくらの多い所……城跡、東仙寺山	一、郷土には、あぶらなを栽培する 二、花についで観察 三、郷土に栽培せるもの ナ、ツナ、メネツケ、ペナ、イヌガラ 大根、白菜、たまな、かぶら、体菜、みづな	一、校庭、或は田圃に遊ぶ蝶につき 二、郷土のてふ くるあげはてふ、もんきててふ、せりててふ、きがげはてふ	一、山野に多き、もちつ、じを觀察 二、校庭のつじ 三、校庭のつじ(學園) さつき(本館前) もちつき(學園) りゅうきゅうつじ(學園)
一年四月	三年四月	一年二月、三月 春の野	一年四月 春の野
郷土科	郷土科	郷土科	郷土科
備考	備考	備考	備考

課七 (るへか)	課八 (ぼんた)	課九 (るたほ)	課十 (ぶやしなは)
かへる	ぼんた	ぼんた	やうなぶし
一、野生せるたんぼはなきも校庭に 二、栽培せるたんぼはなきも校庭に 三、栽培せるたんぼはなきも校庭に 食とのかへるか、あまかへる、つ ちかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ	一、野生せるたんぼはなきも校庭に 二、栽培せるたんぼはなきも校庭に 三、栽培せるたんぼはなきも校庭に 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ ちかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ	一、野生せるたんぼはなきも校庭に 二、栽培せるたんぼはなきも校庭に 三、栽培せるたんぼはなきも校庭に 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ ちかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ	一、野生せるたんぼはなきも校庭に 二、栽培せるたんぼはなきも校庭に 三、栽培せるたんぼはなきも校庭に 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ ちかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ 食とのかへるか、あまかへる、ひきかへる、つ
一年四月	一年四月	一年四月	一年四月
郷土科	郷土科	郷土科	郷土科
備考	備考	備考	備考

課三 (ちづこのみ)	課三 (もく)	課三 (りとはに)	課三 (るひあ)	課三 (布敷の子種)
あしな がばち	きりり すうり	とんぼ	おにゆ	なす
一、管束時期...七月頃 二、種類 三、みづばち、くまばち、ししばち、ちばち	一、栽培状況 二、促成栽培として温床を苗を作り、田畑に定植する 三、種類 四、きりり、かぼちや、うりり、へちま、めろん、れいし、へうたん、からすうり	一、発生時期...五月-九月 二、捕獲に便なる「しほからとんぼ」 三、郷土のとんぼ 四、(俗に、グイヤン)「しほからとんぼ」(むぎわらとんぼ)「うちはとんぼ」(かとりやんま、しやうじやうとんぼ)「うすぎとんぼ」あきあかね 五、おにゆりにつき観察 六、郷土に於けるゆり 七、おにゆり、かのこゆり、さゝゆり、てつばらゆり	一、栽培法 二、温床にて苗を作り定植 三、郷土の種類 四、なす、とまと、とうがらし、じやがいも	一、自生地(観察に便なる所のみ) 二、東仙寺山、校園、遠玉神社境内の一部 三、物に附着するもの 四、きんみづびき、ごぼう、ねすびとはぎ、さくさ、せんたくぐさ、とうこぎ 五、郷土のくも 六、はへとりぐも、てながくも、あしたかぐも、ちぐも、おにぐも、とたてぐも 七、學校附近の養蠶場の主なる所 八、養蠶場II調査表による 九、養蠶場III調査表による
三年九月 布子の散	三年七月 瓜と茄子 夏の畑作物	一年七月 とんぼ 水の中動物	二年七月 瓜と茄子 夏と秋の畑作物	三年十月 布子の散
本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表
校に飼育	校に飼育	校に飼育	校に飼育	校に飼育

課三 (みせ)	課三 (ほがさあ)	課三 (ぎろほこ)	課三 (牛)	課三 (馬)	課三 (分春)
みくま ぜ	ほあさ が	ぎこ ほろ	牛	馬	春分
一、発生時期...五月-六月 二、郷土に於けるせみ 三、くまぜみ、あぶらぜみ、くつくぼうし、にいぐぜみ	一、郷土に於ける種類 二、あさがほ、ひるがほ、まつまいも	一、発生時期...八月-十月 二、郷土に於ける秋の鳴く虫 三、すずむし、くつわむし、きりりくす、ちんちりりん	一、郷土に於ては荷車、乳牛、耕作に使用 二、食用として牛肉の供給状態(調査による) 三、飼養数(調査表による) 四、馬の使役 五、乗馬、荷車馬に飼養するも極く少数なり 六、飼養頭数(調査表による)學区内唯一匹 七、さつまいもは廣角、三輪時、佐野方面 八、じやがたらいもは現在栽培少し	一、夏、冬の風向 二、から風が多い 三、理由は極簡単に説明 四、郷土は比較的雨の多き土地なることを知らしむ 五、遺足を兼ねて飼養探採状況を見せしむ 六、黄銅礦は現地にて採集せるものを観察せしむ	一、郷土の如き小都市にては空氣の新鮮なること 二、鐵工所等にて、鐵類を溶接する場合、酸素の必要なること 三、重病者に酸素吸入をなすこと 四、自宅附近一定の場所より日の出入の方角を継続して観察せしむ 五、郷土に於ける春分頃の温度と年々の比較 六、郷土のことわざ 七、「暑さ寒さも彼岸まで」
一年九月 昆虫捕	一年九月 昆虫捕	一年九月 昆虫捕	三年七月 夏の畑作物	三年七月 夏の畑作物	三年一月 寒暖計
本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表	本産一覽表
校に飼育	校に飼育	校に飼育	校に飼育	校に飼育	校に飼育

郷土化
された

理

科

細

目

尋五

頁	目次
1	序
2	第一章 郷土の概観
3	第二章 郷土の歴史
4	第三章 郷土の産業
5	第四章 郷土の文化
6	第五章 郷土の教育
7	第六章 郷土の交通
8	第七章 郷土の環境
9	第八章 郷土の発展
10	終章 郷土の未来

頁	目次
11	附録
12	索引
13	参考文献
14	おわりに

(川)課四	(戸井泉)課三	(石岩と土)課二	(岩崗花)課一	要項土化
沼澤市熊 澤田の川 の川	井泉 戸	石土 と岩	粗面岩	内 容
1 川の利用 交通、運搬……プロペラ船、筏 其他川舟、外海より帆船、筏 川原 五年	1 泉の観察に便なる所 2 熊野の地方の水質調査の結果 3 塩分の多きこと 4 晴天のとき水田に灌漑する ため田圃の各所に、井戸を有す 5 比較的井水の質悪し	1 三輪崎街道に於ける堀切を觀察 せしむ	1 花崗岩の土質を認めず、粗面岩よりなる 所多し 2 粗面岩の用途 3 石切場……明神山 4 石、粗面岩、石臼、燈籠 ……中国地方より来る花崗岩の産地……	連ト郷土科 絡ノ
2 年六月 筏流し 五月十二 通市型市の 交 模			質郷土地 圖	連ト郷土室 絡ノ 備考

(みずね)課四	(めばつ)課二	(めずす)課三	(竹)課九	(松)課八
ねずみ	つばめ	すずめ	竹	松
1 郷土に於けるねずみの種類 とぶねずみ、はつかねずみ、家ね ずみ	1 候鳥 つばめ 2 つかばめ(とつくりつばめ) 3 かも 4 つばめの飛来と飛去の時期 5 四月上旬……飛去する 6 十月下旬……飛び去る	1 郷土の小鳥 すずめ、ひば、やまがら、めじろ うぐひす、は、じろ、せきれい	1 郷土にて觀察出来る種類 はちく、やだけ、まだけ、めだけ、 いちく 2 郷土に於ける堀切を觀察 せしむ	1 飲料水……市田川 2 其他……製紙工場への供水 3 南澤附近は沼地をなす 4 其の他…… 1 郷土にて主なる仲間 2 がかまつ、ひのき、さはら、つ がもみ 3 かくらまつ、ひまらやしだ 4 土木建築用材として松 5 家屋用材、杭
				上水道 農用上水道

(挺子)課四	(銅)課四	(ムウニミルア、鉛、錫)課四	(至冬)課四	(炭石)課四
挺子	銅	ニアル鉛 ムミ	冬 至	石 炭
4 3 2 1 ボ ン プ の 柄 に 設 け た る ハ ネ ツ ル ベ カ ラ ウ ス	一、郷土にて多用されてゐる物 二、使用上の注意をなす 三、鑛石として佐野の黄銅鑛	一、郷土にて多用されてゐる物 二、電話線のケーブルとして用ひられる(外見鉛管の如きも) 三、魚釣に重りとして自童自身使用せること 四、鉛板に亜鉛をぬつたもの(アルミニウム：辨當箱、水筒、鍋等)に多く用ひられてゐる	一、郷土の風温 二、日の出入時刻、方角	一、熊の川流域の石炭 二、無煙炭にして採掘後川口に近き池田渡船場附近に集め更に帆船にて東京方面に送る
			三年一月 寒暖計	三年一月 寒暖計
	銅産一		入日の 温圖	入日の 温圖
	こ照續黄四 との参銅年			

(ポンプ)課三	(計時と子振)課三	(擦摩)課三	(性慣)課三
ポン プ		摩 擦	慣 性
三、上水道(水源地のポンプ) 二、濾過池より城山配水池に押し上げ るに、強力ポンプを使用すること 一、空気の壓力を利用して水を間断 なく強く噴出せしめる 二、機械力にてカツツクを動かすこ と	一、郷土に於ける子供の多く経験、観 察せる場合 二、舟を陸揚げ、又は陸より下す 時、コロを用ふる事 三、貯木にて材木を引上げるとき、 引上場所をなめらかにすること 四、車の軸に油を引くこと 五、時計と家庭につき調査し、種類 によりて適宜指導をなす 六、時計の使用法	一、兒童が郷土にて経験する場合 二、渡舟の急停止 三、又物の柄をつける場合、させる の灰落しの方法 四、郷土に於て兒童の多く経験、観 察せる場合 五、舟を陸揚げ、又は陸より下す 時、コロを用ふる事 六、貯木にて材木を引上げるとき、 引上場所をなめらかにすること 七、車の軸に油を引くこと 八、時計と家庭につき調査し、種類 によりて適宜指導をなす 九、時計の使用法	一、木場にて材木を移動する場合用 する物 二、兒童が郷土にて経験する場合 三、渡舟の急停止 四、又物の柄をつける場合、させる の灰落しの方法 五、郷土に於て兒童の多く経験、観 察せる場合 六、舟を陸揚げ、又は陸より下す 時、コロを用ふる事 七、貯木にて材木を引上げるとき、 引上場所をなめらかにすること 八、車の軸に油を引くこと 九、時計と家庭につき調査し、種類 によりて適宜指導をなす 十、時計の使用法
	五年五月 上水道		

(か)課三	(うろごんげ しませづみ)	(もささふ ささぎ)	(なふ)課三	(至夏)課三
か	まみろげ しませづみ	うささ ささぎ	ふな	夏 至
一、郷土にて熊の地方面に蚊の多い こと 二、市田川邊は蚊の発生に達す 三、下水道不完全のため蚊の発生に 達す 四、下水道を完全に水溜りを少くす ること 五、水溜りには油類を時々流し発生 を防止すること	一、郷土の水中小動物 二、げんごろう、かむし、みづかまき り、たいごろう、みづすまし、た がめ、まつもむし	一、郷土の水生物 二、くろも、すいれん、あをうきぐさ うきぐも、せきしやうも、たぬき も	一、郷土にて似た魚類 二、あゆ、うぐひ、こひ、はや、はぜ	一、日の出、日の入時刻方角 二、日の出、日の入時刻方角
	三年六月 水中動物	三年六月 水中動物	三年六月 水中動物	三年一月 寒暖計
				入日の 温圖
	飼幼 育虫	し察て育に水 むせ観し飼情		

(炭炭)課三	(塩)課三	(だし)課三	(分秋)課三	(びへ)課三	(稻)課三
炭 炭	塩	し だ	秋 分	へ び	稻
一、郷土に於ける本炭 より来る 二、井戸水を濾過に多く本炭を入れ て懸息及び不純物を吸ひとらす 三、まめ炭を製する	一、郷土に於ての用途 二、漬物、醬油、味噌、味噌	一、郷土に於けるしだ類の主なる物 二、わらび、うらじろ、のきしのぶ、 こしだ、ひとつば、ぜんまい	一、郷土の風温 二、日の出入時刻、方角	一、へびの種類 二、からすへび、しまへび、青大将、 まむし	一、郷土に於ける人体に直接害する 虫のみ、しらみ、あぶ、ぶと 二、稲の品種 三、水田反別 四、もみ蒔き...四月下旬より 五、田植...五月下旬より 六、開花...八月末より九月中旬
					二年六月 水田 計表
			入日の 温圖		

郷土化
された

理

科

細

目

尋六

第1章 郷土の概況	1
第2章 郷土の歴史	10
第3章 郷土の産業	25
第4章 郷土の文化	40
第5章 郷土の教育	55
第6章 郷土の交通	70
第7章 郷土の環境	85
第8章 郷土の発展	100
第9章 郷土の未来	115
第10章 郷土のまとめ	130

要郷土化	内	容	連郷土科	連郷土室	備考
課三 (貝枝二)	貝からすみ	一、市田川、貯木にて採集 しじみ貝、からすみは市田川、貯木にあり 二、各自採取して生態を観察せしむ 三、教室に飼育して共同研究をなす	四年十月 市田川		
課四 (いかに、びえ、こんぢみ)	川えび いかにけび	一、川のえびを捕獲して観察 二、かくれがに、もくずがにを捕へて観察 三、三輪崎の伊勢えび 一、捕獲法の 二、えびの棲む所に網をおきそれにか、るをまち、引き上げ			
課六 (多)	多	一、郷土に於ける多 二、栽培法 三、三月四月頃より成育盛となる 四、食用(白米と混食) 味噌醬油の原料			
課七 (酸塩)	塩酸	一、郷土に於て使用されてゐる塩酸の用途 二、はんだ付け 三、便所等の器具を清掃するときも用ひられる			
				寛農産一	
					育に水飼槽

課八 (酸硫)	課九 (酸硝)	課二 (酸炭)	課三 (灰石)	課四 (ルア)	課六 (つたりむ)
硫酸	硝酸	石灰	石灰	アルコ	かたつむり
一、門札等に文字を書く場合本片にローを塗し、文字を書き硫をその上に流し、文字を腐蝕させて、文字を表すことあり	一、硝酸銀として寫真用で使用、又手工等にて竹材の着色	一、郷土にては洗濯ソーダと稱して洗濯用に多く用ふ 1 炭酸ソーダと言へば重炭酸ソーダの事と心得てゐる者多し、混同せざる様取扱ふこと 二、郷土に於ける石灰の使用 肥料、塗食、セメントに混入 運動會等にライオンを表すに多く使用する(我教にて)	一、郷土に於ける飲料とされてゐる酒類清酒、ビール、葡萄酒、焼酎 味淋	一、郷土に於ける巻貝 たにし、かたつむり、川にな、さ 二、夏季雨の多い郷土にては特に發生旺盛なり	一、かたつむり 一年六月

(生衛)課五	(具器氣電)	(機話電)課三	(機信電)課三	(燈電)課五
電 動 機	電 機 機 器	電 話 機	電 信 機	電 燈
一、郷土に於ける死亡者及病名 二、呼吸器病者、消化器病者、神経系 病者、外傷者 三、傳染病患者死亡率 健康相談所	一、電機器具の安全に注意せしむ 二、電機器具の修理に注意せしむ 三、電機器具の交換に注意せしむ 比較的一般的なる電機器具につき 主として使用上の注意	一、学校の電話を使用して實際練習 特に電話に経験なき者につき折々 順次指導をなす 二、電話は亂用すべきものでない 電話交換状況を見學せしむ	一、電報を局に依頼する場合の諸心 得	1 高壓線には近よらぬこと 2 低壓線とても油断せぬこと 一、電燈を經濟的に使用 1 メートル器具なき家庭は不用なる 時にても点燈する器具あり電力 消費と共に電球の壽命少くなる こと 2 メートル器具設置の場合 ロ、電球は信用ある會社製のもの イ、不用なる時は消燈
		六年一月 郵便局	六年一月 郵便局	六年十一 電力會社
表查衛 一生調 覽			待合せ 時間表	

(体風と熱の力壓)課五	(方移の熱)課三	(岩成水)課三	(き働の水)課三	(山火)課三
力 体 熱 と 風 の 力 壓	熱 の 移 り 方	水 成 岩 地 層	熊 の 川 の 水	火 成 岩 山
1 汽車の機関が蒸氣の力で動くこと 2 電力會社、製紙會社、製絲會社 にも蒸氣機關が運轉してゐる	一、郷土に於て熱の移方につき考へ られるもの、又は應用せるもの 1 水店にて暖房使用 2 水筒として電法瓶使用 3 風呂の水沸し 4 冷蔵庫に水を置く位置 一、蒸氣機關 1 汽車の機関が蒸氣の力で動くこと 2 電力會社、製紙會社、製絲會社 にも蒸氣機關が運轉してゐる	一、地層の現れてゐる所 三、輪崎の新街道	一、熊の川下流を觀察 浸蝕：他田渡舟場附近の岩石、 宮井戸附近の岩石がなめらかな つて河岸に表れてゐる 川原の石：なめらかな 連環：上流より川口に小礫を流 し来る 沈積：川口が毎年閉じられること	一、郷土には火成岩中の石英粗面岩 よりなる所あり 代表箇所：明神山
	三年一月 寒暖計		四年五年 熊の川口	

(流電)課五	(氣電)課三	(石磁)課三	(音)課三	(メソレ)課元	(射反の光)課三
電 流	電 氣	磁 石	音	レ ン ズ	射 光 の 反
一、自轉車用電機 二、使用上の注意 三、高壓低壓の送電線	一、電柱、電線、ラゲオ等に對して雷 當の處置 二、雷に對しての注意	一、郷土の方向を實験 學校或は自分の位置より各方面の 方向を研究せしむ 例三輪崎は何れの方向か 熊の川口は何れの方向か 自分の家は何れの方向か	一、郷土に見る音を發するもの グアイオリン、尺八、太鼓、ラッ ク、マ、ツリ、琴、ハモニカ、オル ガン、ピアノ、三味線	一、郷土に於けるレンズの應用せる もの 顕微鏡、望遠鏡、眼鏡、虫眼鏡、 活動寫眞機	一、電燈の傘、自動車の電燈、懐中 電燈の反射装置を觀察せしむ
六年十一 電力會社	三年七月 雷と夕立				

郷土化
による
地理教授の取扱

地理科に於ける郷土化とは、郷土の材料を十分に調査研究しておいて、他地方の取扱に際して自己の郷土に關係づけ、自己の郷土を理解すると共に他地方が理解出来るやうに比較研究する事である。

指導方針

- 1 郷土の地理的調査とその活用（郷土科へ連絡）
- 2 各地方と郷土との比較研究及關係研究
- 3 各地方の研究による郷土の反省考察
- 4 全日本、全世界に於ける郷土の認識

項目	内容	備考
1	郷土の地理的調査とその活用	
2	各地方と郷土との比較研究及關係研究	
3	各地方の研究による郷土の反省考察	
4	全日本、全世界に於ける郷土の認識	

郷土化
された

地理科細目 尋五

郷土化
された
地理科細目
の
単
元

この単元は、地理科の学習の中心となる。郷土の自然環境と人間活動の相互関係について、具体的な事例を通じて理解を深め、郷土愛を醸成する。また、地域の発展と持続可能性についても考察する。

1. 郷土の自然環境の観察と認識
2. 人間活動と自然環境の相互関係の探究
3. 郷土の発展と持続可能性の考察

第三課 (奥羽地方)

特色の比較	見られた方角	発展的考察
<p>1 東京市発展の原因</p> <p>2 人文的</p> <p>3 自然的</p> <p>4 政治、経済、文化、教育、交通の中心地</p> <p>5 地形的特色と都市発展</p> <p>6 低地(下町)</p> <p>7 台地(山手)</p> <p>8 工業区(新野地)</p> <p>9 商業区(元町等)</p> <p>10 住宅区</p> <p>11 官衙(事務)</p> <p>12 農産区(市田川邊(地方))</p>	<p>1 各縣所在地在を新宮から見た位置、即ち如何なる方面にあたるか(關中心に)</p> <p>2 奥羽地方は北海道、樺太への漸移地帯として認められ、文化的中心地でもないが、我が國の文化的中心地帯から遠く離れた位置にあること</p>	<p>1 流長は大差なきに流域面積の差の大なるは川に沿ふて平地や盆地の多い故なる事を理解さす</p> <p>2 岩手縣の三陸地方の海岸は、リアス式海岸で、紀伊水道の海岸もリアス式であることを地圖に依つて考察せしめる。リアス式海岸の特色を理解さす</p> <p>3 沈降海岸に多きこと</p> <p>4 後背地なく高峻な山が迫つて海陸交通の連絡が不便であること</p>

面積人口の比較	奥羽山脈と紀伊山脈	各河川と
<p>1 面積(平方)</p> <p>2 人口(人)</p> <p>3 密度(人/平方)</p>	<p>1 奥羽山脈は南北に奥羽地方を走つてゐるが、紀伊山脈は東西に走つてゐる。紀伊山脈は紀伊半島を東西に走つてゐる。紀伊山脈は紀伊半島を東西に走つてゐる。</p>	<p>1 流域面積</p> <p>2 流量</p>

奥羽各地と新宮の気温比較	三陸の海岸と紀伊の海岸	最上野阿
<p>1 氣候圖に依つて代表的青森、秋田、石巻、山形等の氣候と考察せしむ</p> <p>2 位置の北にあること</p> <p>3 海流の種類につき</p> <p>4 影響を比較研究せしむ</p> <p>5 耕地面積(單位百ヘクタール)</p>	<p>1 岩手縣の三陸地方の海岸は、リアス式海岸で、紀伊水道の海岸もリアス式であることを地圖に依つて考察せしめる。リアス式海岸の特色を理解さす</p> <p>2 沈降海岸に多きこと</p> <p>3 後背地なく高峻な山が迫つて海陸交通の連絡が不便であること</p>	<p>1 流長は大差なきに流域面積の差の大なるは川に沿ふて平地や盆地の多い故なる事を理解さす</p> <p>2 岩手縣の三陸地方の海岸は、リアス式海岸で、紀伊水道の海岸もリアス式であることを地圖に依つて考察せしめる。リアス式海岸の特色を理解さす</p> <p>3 沈降海岸に多きこと</p> <p>4 後背地なく高峻な山が迫つて海陸交通の連絡が不便であること</p>

氣候と農産物(柑ごとう蜜)	牧馬地帯としての本地方と和歌山縣
<p>1 東北地方の主要農作物は米、大豆、小麦、粟、雑穀、油桐、麻、桑、茶、果樹、畜産物等である。奥羽地方は、東北地方の主要農作物は米、大豆、小麦、粟、雑穀、油桐、麻、桑、茶、果樹、畜産物等である。</p>	<p>1 奥羽地方が廣大な原因は、未開墾の原野が多いこと、風土が適していること、古來歴史的に盛んで獎勵したことを本縣に比較して</p>

(方地州九) 課八第

都市人口の比較	面積人口の比較	位置の考	九州の温泉及公園
<p>高松市 一〇〇〇〇〇人</p> <p>徳島市 九四〇〇〇人</p> <p>岡山県 八七〇〇〇人</p> <p>今治市 八四〇〇〇人</p> <p>宇和島 八〇〇〇〇人</p> <p>丸亀市 七九〇〇〇人</p> <p>(和歌山) 二二六〇〇人</p> <p>(新宮) 二二六〇〇人</p> <p>(昭和八年十月一日推計)</p>	<p>高松市 二二〇〇〇(方)</p> <p>徳島市 二二〇〇〇(方)</p> <p>岡山県 二二〇〇〇(方)</p> <p>今治市 二二〇〇〇(方)</p> <p>宇和島 二二〇〇〇(方)</p> <p>丸亀市 二二〇〇〇(方)</p> <p>(和歌山) 二二〇〇〇(方)</p> <p>(新宮) 二二〇〇〇(方)</p> <p>(昭和五年國調)</p>	<p>●日本全体から見た位置</p> <p>●四州関係から見た位置</p> <p>●海外諸國への發展的位置</p> <p>●海土から見た位置</p>	<p>●別府温泉 八〇〇〇人以上の浴客を呼ぶ</p> <p>●別府温泉 八〇〇〇人以上の浴客を呼ぶ</p> <p>●別府温泉 八〇〇〇人以上の浴客を呼ぶ</p> <p>●別府温泉 八〇〇〇人以上の浴客を呼ぶ</p> <p>●別府温泉 八〇〇〇人以上の浴客を呼ぶ</p>
全国順位	人口密度		
市分都	人口分		

高知縣の比較	和歌山縣の比較	水産物の比較	交通の比較	製紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較
高知縣 一〇〇〇〇〇	和歌山縣 一〇〇〇〇〇	水産物 一〇〇〇〇〇	交通 一〇〇〇〇〇	製紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇
高知縣 一〇〇〇〇〇	和歌山縣 一〇〇〇〇〇	水産物 一〇〇〇〇〇	交通 一〇〇〇〇〇	製紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇

吉野川と	紀伊水道	四國山脈	以平洋	斜面	林業	歌山縣	林業
吉野川と 紀伊水道	四國山脈 以平洋	斜面 林業	歌山縣 林業	林業 歌山縣	林業 歌山縣	林業 歌山縣	林業 歌山縣
吉野川と 紀伊水道	四國山脈 以平洋	斜面 林業	歌山縣 林業	林業 歌山縣	林業 歌山縣	林業 歌山縣	林業 歌山縣

高知縣の比較	和歌山縣の比較	水産物の比較	交通の比較	製紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較	野工紙の比較
高知縣 一〇〇〇〇〇	和歌山縣 一〇〇〇〇〇	水産物 一〇〇〇〇〇	交通 一〇〇〇〇〇	製紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇
高知縣 一〇〇〇〇〇	和歌山縣 一〇〇〇〇〇	水産物 一〇〇〇〇〇	交通 一〇〇〇〇〇	製紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇	野工紙 一〇〇〇〇〇

課八第 (委洋南が我) 課六第 (州東關) 課五第	人口構成	和歌山人	和歌山人	和歌山人
日満関係 昭和三十七年九月十八日 日満関係 昭和三十七年九月十八日 日満関係 昭和三十七年九月十八日	人口構成(昭和三年末) 内地人 本地人 外国人 (一日) (一日) (一日)	和歌山人 内地人 二六三三人 本地人 六六七三人 和歌山人 二七九人	和歌山人 内地人 二六三三人 本地人 六六七三人 和歌山人 二七九人	和歌山人 内地人 二六三三人 本地人 六六七三人 和歌山人 二七九人

(州ヤジア)
<p>1 南滿洲鐵道(奉天—山海關)</p> <p>2 安奉鐵道(安東—奉天)</p> <p>3 奉天鐵道(奉天—瀋陽)</p> <p>4 吉長鐵道(吉林—長春)</p> <p>5 吉甯鐵道(吉林—寧安)</p>

日支關係	日支關係	日支關係
<p>一、歴史的な關係</p> <p>二、國際的關係</p> <p>三、移民關係(在外本邦人)</p> <p>四、日貨排斥</p> <p>五、貿易關係(單位千圓昭和九年)</p>	<p>一、歴史的な關係</p> <p>二、國際的關係</p> <p>三、移民關係(在外本邦人)</p> <p>四、日貨排斥</p> <p>五、貿易關係(單位千圓昭和九年)</p>	<p>一、歴史的な關係</p> <p>二、國際的關係</p> <p>三、移民關係(在外本邦人)</p> <p>四、日貨排斥</p> <p>五、貿易關係(單位千圓昭和九年)</p>

日印關係	日印關係	日印關係
<p>一、交通上(我が國の航路)</p> <p>二、南洋羣島(大正八年)</p> <p>三、南洋羣島(大正八年)</p> <p>四、南洋羣島(大正八年)</p>	<p>一、交通上(我が國の航路)</p> <p>二、南洋羣島(大正八年)</p> <p>三、南洋羣島(大正八年)</p> <p>四、南洋羣島(大正八年)</p>	<p>一、交通上(我が國の航路)</p> <p>二、南洋羣島(大正八年)</p> <p>三、南洋羣島(大正八年)</p> <p>四、南洋羣島(大正八年)</p>

郷土化による
圖書教授の取扱

- 目的**
 郷土には郷土特有の美と云ふものが必ず存在する、是を正しく鑑賞し抽出する事に依つて之が理解を深め理解より郷土愛へ郷土愛より祖國愛へと止揚せんとす
- 指導精神及其の方法**
- 1 郷土教育は必ず現代に立脚すべき事
 - 2 排他的ならざる事
 - 3 徒らに過去のならざる事
 - 4 郷土化の一点に膠着せざる事
 - 5 兒童の体験を基礎とし環境の調査をなす
 - 6 兒童の親み深きものを選ぶ

貿易關係		昭和四年(單位千圓)
我が輸出品	(四四〇七五)	日高
絹織物	(二六二七一)	西半
綿織物	(二九二七)	東半
陶磁器	(一一五九)	計
生糸	(三三三二)	元
我が輸入品	(一三二六二)	元
羊毛	(九九〇五九)	元
小麦	(一五四〇八)	元
亞鉛	(二九二〇)	元
鉛	(一三四三)	元

第一學年 第一學期

二	八	七	五	
扇立祭	端午の供	金魚	遠足	教材
思想書	思想書	思想書	思想書	方法
一	一	一	一	時数
<p>要旨</p> <p>眠るが如き春の海霞める山野海に山に木に草にはた又花に恵まれたる我が郷土を心ゆくまで觀賞せしめ伸々と彼等の描畫思想を發展せしめたい。</p> <p>金魚を描かせて思の自由表現をなすと共に魚類に對する描寫趣味を養ふ。</p> <p>端午の節句の様子を描かじめ構想力を練り思想の表現につとめたい鯉のぼりは最も印象強いものであるが低学年の兒童には少しむづかしいので家庭的行事の方が良からん。</p> <p>楽しい吾等が郷土の夏祭りの有様を描かして自由なる思想の表現をなさしめたい。</p>				
クレオン	クレオン	クレオン	クレオン	児童
八切、九切 参考書	八切、九切 参考書	八切、九切 参考書	八切、九切 参考書	教師
<p>教授上の注意</p>				
<p>郷土との連絡</p> <p>郷土科五月 金魚と連絡を取り自然觀賞をなし細密なる觀察眼を養ふ。</p> <p>郷土科六月 端午の節句に關聯して取扱ふ。</p> <p>郷土科七月 扇立りに連絡を取る。</p>				
<p>備考</p> <p>補充教材 (家庭作業)</p>				

郷土科
國語科
算数科
理科
音楽科
図畫科
体育科
生活科
道徳科
英語科
総合学習

目的

1. 郷土の自然環境を認識し、郷土愛を育てる。

2. 郷土の歴史や文化を学び、郷土の発展に貢献する。

3. 郷土の産業や職業を学び、郷土の産業を支援する。

4. 郷土の伝統行事や祭りを学び、郷土の文化を継承する。

5. 郷土の自然環境を保護し、郷土の自然環境を保全する。

第二學年第二學期	
五月 見 思想畫	一年生の時は月を主題とし ての思想表現であつたが本 學年は行事を取入れた描畫 練習をなすしめたい
九 お祭り 思想畫	お祭りに對する思想を整理 すると共に郷土意識を確認 せしめ自由表現を練習する
二 稲の取入 寫生	樂しき農家の取入れ時の有 様を半ば思想的に寫生的 練習をなす
二 風 寫生	風を描かせて寫す描寫の趣 味を養ふと共に其の表現法 に習熟せしむ
五 お燈祭り 思想畫	異色ある郷土の行事とその 美を確認せしめ是に對する 思想を整理し自由なる表現 練習をなす

第二學年第三學期

第三學年第一學期

第三學年第一學期	
三月 春の野山 寫生	春の郊外に出で暮まれたる 我郷土の自然美を鑑賞せし めると共に風景寫生の要領 を得せしむ
五 遠足 思想畫	遠足に對する記憶を整理し 之が自由表現を練習す
五 校庭の花 思想畫	校庭の藤の花に對する兒童 の思想を整理し自由なる表 現描寫の練習をなす
八 鯉のぼり 寫生	天空に風をのむ勇ましき鯉 のぼりの寫生練習純寫生的 よりも半ば思想的に取扱 ふ
九 梅雨 思想畫	梅雨に際して之を直観せし め且つ之が思想を整理し彼 等の自由なる表現様式を指 導す

第三學年第二學期		第三學年第三學期	
九	お祭り 思想書	二	多咲く花 寫生
二	秋の景色 寫生	五	お祭り 思想書
二	一	八	玩具の寫
宮の境内の様子を問答し彼等の記憶を新にし店、参詣人、社等を用ひてお祭の様子を表現せしむ。	多咲く花について問答し兒童の思想を整理し且つ之が一、二を撰び寫生練習をなす。	お祭りに對する認識と審美眼を深め是が自由なる表現練習をなさしむ。	種々の玩具を描かして寫生練習をなし物の立体感を描出することを會得せしめ郷土玩具への芽生を培ひたい。
クレパス 六切書用紙 参考書	クレパス 六切書用紙 参考書	4クレパス 8切書用紙 参考書多 4クレパス 8切書用紙 参考書多	4クレパス 6切書用紙 玩具類多 参考書多
郷土科十月阿須賀神社の御用色を畫用紙使を深めつ、教授を進む	郷土科十一月秋の野原に連絡	全体的の氣分を抽出することに留意すると共に點景人物の描寫についても相當に考慮すべく配慮ありたし。	形の正確にとることと明暗に注意すること暗色と黒との相違をよく理解せしめて欲しい。
郷土科十月阿須賀神社の御用色を畫用紙使を深めつ、教授を進む	郷土科十一月秋の野原に連絡	郷土科教材 神倉神社に連絡を取る。	郷土科教材玩具の種々に連絡を取る。
明色の色畫用紙使	薄き茶黄色の畫用紙使用	暗色の畫用紙を用ひなば奥き結果を得ん	多咲く花 福壽草 椿 水仙 梅 萬年草 等 温室咲のものは取らず

第四學年第一學期

第四學年第一學期		第四學年第二學期	
六	阿須賀神社及野川口 寫生	八	壺と果物 寫生
七	野川口	二	扇立祭 思想書
八	秋の景色 寫生	一	一
お宮を中心とした景色をかかせてその景色にひたせ且寫生表現力並に寫生表現への興味を養ふ。	壺と果物を寫生させてその掛圖のとり方に習熟せしむると共に觀察及び表現力の養成につとめたい。	祭の當夜を想起せしめ之を描かせて構想力を練り思想を發表をさせる。	秋の景色に浸らせ秋の自然を鑑賞させその表現方法を期す
4クレパス 8切書用紙 参考書多	4クレパス 8切書用紙 参考書多	4クレパス 8切書用紙 参考書多	4クレパス 8切書用紙 参考書多
郷土科教材阿須賀神社及野川口	郷土科教材扇立祭に連絡	六、七週を合して二時間とすべく適當なる配慮を乞ふ教師共に描きて参考に資すること。	秋の景色について話し常に秋の景色の美しさに浸らせらるる廣告しておくこと、教師共に寫生をなし参考に資すること。
郷土科教材野川口	郷土科教材扇立祭に連絡	郷土科教材阿須賀神社及野川口	郷土科教材市田川
往復の所要時間約十五分なら各一時間づゝに分ちて記	往復の所要時間約十五分なら各一時間づゝに分ちて記	郷土科教材阿須賀神社及野川口	往復の所要時間約十五分

九	秋の景色 (東仙寺 附近)	写生	一	全	4クレパス 4B鉛筆 文切書用紙 展掛等	此の時間に過ぎり終の時間 にし時間に餘ゆをとるこ と。	郷土科教材東仙寺 及び清水の大師堂 に連絡をとること	往復の時間約三十 分 雨天の時は教室の まどよりみたる景 色	
四	お燈祭	写生	一		4B鉛筆 四切書用紙 参考書多敷 お燈祭のお 人形	此の寫生を基として自宅に て人物を主とせるお燈祭の 圖をえがかしめる	郷土科教材(二月 分) 神角神社に連 絡		
五	節分 (思想書 宿題)	思想書	一		4B鉛筆 文切書用紙 展掛等	郷土科教授の際之を課題す 構圖に留意さす氣分描寫に 努力さす。			
一	造船所	写生	二		4B鉛筆 文切書用紙 展掛等	構圖形體、點景人物の配置 明暗調子に注意さす 郷土科教授の際課す 郷土科教授の際課す	郷土科教材造船所 に連絡す	往復所要時間約三 十分間(男のみ)	
補三	八咫鳥 圖案	圖案能力の養成	二		用紙用具 自分の好み のもの				
週	教材	方法	時數	豫定	要旨	標準	教授上の注意	郷土との連絡	備考

第五學年第一學期

七	景色 (徐福の 墓)	写生	二		4B鉛筆 水彩用具 水彩紙四切 展掛	郷土科教材徐福の墓に關連 せしめ遠き二千年の大昔は るく不老不死の藥草を求 めて渡來せしことを想像せ しめ自然の美に配するに傳 説の美を交織せしめたい。	而して美しの香郷 土をしみじみと感 ぜしめたい	關堂前に整列せし め横の所より行進 女子は思想書に費 り宿題とす
〇	忠魂碑	思想書	宿題		用紙用具 自由		郷土科の忠魂碑と 連絡をとる	
二	弘法大師	思想書	宿題		4B鉛筆 墨筆 用紙四切 展掛	線及び運筆に注意	郷土科教材清水大 師堂に關連	
二	暫文拂	思想書	宿題		用紙用具 自由	中心点をしつかりつかむこ と	郷土科教材暫文拂 に連絡をとる	
三	風景 (川原)	写生	宿題		4B鉛筆 自由	遠近高低に注意	郷土科教材城址及 び川原に連絡す最 後の時間に課す	場所城址往復の時 間約二十分

第五學年第二學期

八	鐵工所	宿題	一		用紙用具 自由	よくみることに正確に描くこ と	郷土教材鐵工所と の連絡	
五	お燈祭	宿題	一		水彩用具 4B鉛筆 用紙八切 参考書多敷	簡明にして目立つこと色は 三色内にて製作さすこと	郷土教材神倉神社 に連絡すること	
二	弘法大師	思想書	宿題		4B鉛筆 墨筆 用紙四切 展掛	線及び運筆に注意	郷土科教材清水大 師堂に關連	
二	暫文拂	思想書	宿題		用紙用具 自由	中心点をしつかりつかむこ と	郷土科教材暫文拂 に連絡をとる	
三	風景 (川原)	写生	宿題		4B鉛筆 自由	遠近高低に注意	郷土科教材城址及 び川原に連絡す最 後の時間に課す	場所城址往復の時 間約二十分

第五學年第三學期

第六學年第一學期

週	教材	方法	時数	要旨	準備		教授上の注意	郷土との連絡	備考
					児童別	教師別			
六	家のある景色	写生	二	家のある風景を写生させて建築物のある景色寫生の能を養ふと共に、その表現生活に親しめたいものである	4B鉛筆 水彩用具 多量	四切書用紙 画板 参考書	遠近法に注意すること 正確にがつしりと量感を出すこと 第一時で形どり、第二時着色の決定	郷土教材製紙會社に連絡をとる	目標は製紙會社
七	全	寫生	二	前週と同じ之に配するに樹木其の他を以てす	4B鉛筆 水彩用具 四切書用紙 画板 膠紙	風景畫として取扱ふ	素材を郷土の特色あるもの、木、竹、草、花、石、土、瓦等にとること	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社
二	カット	圖案	二	カットを考察させてカット圖案に對する趣味を養ひ、且つその表現法に習練す。	蠟筆	全	又郷土の名所史蹟等(城山、熊野川、浮島、筏等)にとること	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社
三	カット	圖案	二	全	全	全	又郷土の名所史蹟等(城山、熊野川、浮島、筏等)にとること	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社
四	手拭圖案	圖案	二	手拭の圖案をなましめて實用圖案の構成を會得させると共にその圖案的表現美に浸らせたいものである。	4B鉛筆 水彩用具 實物多量	書用紙八切 参考書及び 實物多量	一時間は自由圖案 二時間目は前週同様郷土色を帯びしめ郷土宣傳をかねること	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社

第六學年第二學期

週	教材	方法	時数	要旨	準備		教授上の注意	郷土との連絡	備考
					児童別	教師別			
六	裝飾文字	圖案	二	裝飾文字を描かせることに依つて裝飾なるものにふれしむると共にその應用力の養成につとめたい	4B鉛筆 書用紙八切 参考書多量	紋名其の他郷土に關係ある文字を多くとり入れること	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社	
九	秋穫	思想畫	一	秋の收穫の状況を描かせて構想力を練り且つ思想の發表をなましむ	4B鉛筆 水彩用具 参考書	秋の收穫の楽しさを味ひつゝ、遠近法秋の色調に留意して之がかかむ	郷土の秋の有様を味はす	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社
一〇	お祭	思想畫	一	水墨によりて日本畫的思想をねる	日本紙 日本紙 日本紙	遠近法秋の色調に留意して之がかかむ	郷土の秋の有様を味はす	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社
四	節分	思想畫	宿題	日本畫的練習	用紙自由 筆墨硯	構想に留意せしむ人物描寫につとむ	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社	
五	お燈祭	全	一	水墨淡彩の練習	墨筆硯 水彩用具 半紙 参考書	日本畫淡彩の鑑賞	郷土教材製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社に連絡	郷土製紙會社、郷土製紙會社、郷土製紙會社	

本校体育指導の精神

教育はどこまでも児童そのものが主体であり、我等の日常行するところの教育は、児童生活へ、内面的に且又具体的に喰込み、而してよりよき生活の發展性を助長すべきにあると思ふ。而してその教育の一内面たる体育に於ても、我等は児童の身体發育状況に留意し、且環境（風俗、習慣、地勢、氣候、産業）の児童身体に及ぼす影響を觀察重視して、児童身体の上及び我が郷土人の強健に努力してゐる。

當地の父兄は多くは製材工場及びその他の工場にての勞働者多く、随つて児童も家庭に於て筋肉勞働を手傳ふが故に一般に脊柱に於て不正なる者多し。又男女共に子供を守りすることが多き故に、自然間食が多く（不規律）胃腸及び齒の悪き者意外に多し。尙衛生方面に於ける思想たるや甚だ幼稚なれば、特に体操時の雨天を利用して且又朝禮時その他適宜の時間に全校系統案に依りてこれが普及に努力してゐるのである。

積極的には体育行事を多くして趣味と自己身体の自覺を促し、而して強壯なる身体への鍛練へ。消極的には生活全野が自己身体に及ぼす影響を重視し、之れが指導に重きをおいてゐるのである。

◎体育行事表及び郷土に立脚せる雨天時に於ける体育指導系統案の一例を示す。

		四 月			五 月			六 月			七 月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
児童中心行事	校内体育	遠足 合同体操			海軍記念日体育會合同 体操			合同体操			海水浴開始 合同体操		
	校外体育												市内小学校野球リーグ
	養護方面	肌腰掛の入替へ 身体検査、異状見検査 服用			体力テスト 服用			服用			身長体重胸圍測定 異状見検査 服用		
	衛生講話	服用に就いて			トラホームに就いて			梅雨期の衛生に就いて			水泳及夏の衛生に就いて		
	職員中心行事	体育部長及体育部長決定、 身体検査			体育優良児調査 細目修正 体操用具手入								体育講習會出席 運動具整備

		八 月			九 月			十 月			十 一 月			十 二 月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
児童中心行事	校内体育															
	校外体育															
	養護方面				身長体重胸圍測定 服用			異状見検査 体力テスト 服用								
	衛生講話				日光と衛生に就いて			頭髪皮膚の衛生に就いて								
	職員中心行事				体育講習會報告 体操用具手入			秋季大運動會打合せ會								

月 一	月 二	月 三
上 中 下	上 中 下	上 中 下
耐寒遠足 合同体操	校内フットボール會 合同体操	陸軍記念日体育會 本業遠足 合同体操
身長体重胸圍測定 屈曲測定用	体力テスト 屈曲測定用	異状見検査 屈曲測定用
呼吸器衛生に就いて	簡易醫學に就いて	
運動用具手入		体育優良児童表彰

体育衛生講話配當表

月 九	月 七	月 六	月 五	月 四	三
1 寒冷に氣をつけよ 2 耳の衛生	1 夏の衛生 2 雨に濡れない事 3 水泳	1 鼻 2 梅雨 3 我が皇室と体育(秩父宮殿下)	1 トラホーム 2 遠足の注意	1 身体検査の利用 2 痘痘	三 年
1 秋の衛生 2 寒冷に氣をつけよ	1 " 2 顔面の衛生 3 "	1 近視眼 2 " 3 我が皇室の体育(海上陛下)	1 細菌 2 "	1 " 2 齒の衛生	四 年
1 過度な運動の害 2 下痢	1 水泳 2 皮膚の衛生	1 運動の一般的效果 2 " 3 英國人の運動	1 体育運動 2 "	1 " 2 これからの皆さんの身体	五 年
1 疲勞 2 腸胃	1 " 2 精神	1 体操に於ける各運動の目的 2 "	1 体操の必要 2 "	1 " 2 "	六 年

月 十	月 一十	月二十	月 一	月 二	月 三
1 食事に就いて 2 應 接	1 姿勢に就いて 2 美 談	1 冬の衛生 2 腹の力	1 悪い習慣 2 襟巻とオリーブ	1 入 浴 2 日 光	1 間 食 2 公衆衛生
1 靴(靴下、下駄) 2 健走する間にも親切	1 体育に心掛ある人となない人 2 日本の爲に	1 〃 2 凍傷とその預防	1 眼 2 咳 嗽	1 便 移 2 美 談	1 勞働作用 2 舌
1 運動實施上の注意 2 体操祭	1 運動の身体各部に及ぼす影響 2 福東オリムピック大會 (東洋体育協會と改む)	1 人体の三大本體 2 米國人の運動	1 胸 廓 2 マラソンの起源	1 不良姿勢 2 發 熱	1 体 格 2 体操の風人
1 近視眼の節 2 明治神宮體育會	1 オリンピックゲームス 2 萬國オリンピック大會	1 練習と休養(其ノ一) 2 〃 (其ノ二)	1 榮 養 (其ノ一) 2 運動適否の見分方	1 榮 養 (其ノ二) 2 静かな心を持つて	1 應急手當 2 調乙の運動

郷土化による裁縫教授の取扱

目的
 裁縫科の本来の目的と郷土に於ける裁縫に對する現實とを、考察し以つて相接近せしめ本来の目的を遂行せんとす。

指導精神

- 1 郷土に用ひられる俗稱の矯正
- 2 副次的たる女子道としての作法を重じ、協同生活に於ける情緒陶冶をなす
- 3 常に左の三項目に留意し指導す
 - イ、何を着てゐるか……現實
 - ロ、何を着るべきか……學理
 - ハ、然らばどうあらねばならぬか……實行